

令和元年度 夏期報告書

学部／学科：国際学部 国際学科 学年：2年 氏名：金田 日菜子
実習先：フエ外国語大学
実習期間：令和元年9月9日～9月27日



1. 実習先の概要

実習先：フエ外国語大学
住所：57Nguen Khoa Chiem, Hue city
事業内容：教育

2. 実習内容

- ① 浴衣教室
- ② 作文の添削
- ③ 会話の授業
- ④ 作文の授業

2.1 実習スケジュール

- 1・2 コマ 7:00～8:40
- 3・4 コマ 9:00～10:40
- 5・6 コマ 11:00～13:00 (お昼休み)
- 7・8 コマ 13:00～14:40
- 9・10 コマ 15:00～16:40

2.2 実習内容詳細

① 浴衣教室

浴衣教室は3日間行われました。火曜日に浴衣の着方とたたみ方、木曜日に帯の締め方を教え、金曜日は生徒さんに全部着てもらい、記念撮影と賞状授与を行いました。浴衣の着付けは日本支援機構のパートナーズの方から教わり、個人練習を何度も重ねました。一日目は1年生の学生さんも参加するため、まずは簡単な単語の説明をしました。「おはしょり」や「そで」のような浴衣の部位や「締める」「結ぶ」のように説明の際に必要な単語を覚えてもらいます。浴衣の着付けを実際に教えるときはみんなの前に立ち、何度も同じ動作を繰り返す事でわかりやすくするよう心がけました。特に帯びの結び方が難しいため、学生の様子をよく見ながら進行する事が重要だと思います。生徒さんが浴衣を自分で着られるようになり、笑顔で「ありがとうございます。」「先生のおかげで着ることが出来ました。」と言ってもらい、やりがいや達成感を感じました。

② 作文の添削

作文で間違っている部分があれば、色ペンで示し、正しい表現に直しました。また、なぜそれが間違っているのかの説明や関連した文法構造、似たような表現も書き加えました。学生さんに自信を持ってもらうため、「私もそう思います。」「字がきれいです。」などのコメントもするようにし、ただ間違いを指摘するのではなく、次のやる気に繋がるような添削を心掛けまし

た。また、添削をやり続けていると多くの生徒さんが共通して間違っている部分があります。文法的には合っているけれども、実際の生活で使わない表現を使ってしまう生徒さんが多く、改めて日本語の難しさを感じます。

③ 会話の授業

会話の授業では学生が円になって座り、その真ん中に立って、学生の質問に答えるという事を行いました。学生さんは最初、自分の日本語が伝わるか自信が無いため、あまり話してくれません。そのため、会話の授業では自分から積極的に学生に話しかけ、会話を引き出すようにする必要があります。また、出来るだけ別の生徒さんと話すようにし、多くの学生が話せるようにしました。日本とベトナムの違いやフエで魅力的に感じる事などを話すと、生徒さんはとても興味を持って聞いてくれますし、最初はあまり積極的に話さなかった子も徐々に話してくれるようになります。

別の授業ではディスカッションを行いました。議題は「結婚前の同棲に反対か賛成か」や「サッカーでベトナムのチームが優勝した時、騒ぐのに賛成か、反対か」など内容が幅広いです。特に印象が深かった議題は「国際結婚に賛成か反対か」です。国際結婚に対して反対の生徒さんが多く、理由は「文化の違いがあるため」でした。「日本人男性と結婚したいですか。」と質問をするとほとんどの女子生徒さんは「したくない」と答えました。理由を聞くと「日本で、女性は結婚すると家庭の事をしなければならなく社会で活躍しにくい。ベトナムでは男性も家事をする。」と答えてくれました。日本はジェンダー格差が大きい国であり、海外の方からもそのように見られているという事に驚きました。自分の国が他の国からどう思われているのかが分かる貴重な機会になったと思います。このように、会話の授業は自分から積極的に質問することで、自分自身の学びや気づきにも繋がると思います。また、学生さんの中にはとてもユニークな意見を持った子もいて、文化的違いの面白さも感じます。

④ 作文の授業

作文の授業は先生によって全く授業形式が違います。新しい文法を身につけた上で、自分で作文する授業や文中の文法的誤りを見つける授業など様々です。日本語の文法を教える事は想像以上に難しいです。いつも感覚的に日本語を使っているため、なぜ間違いなのかをわかりやすく伝える事に苦労しました。テキストは現地のものを先生が事前に見せてくれます。それを見て、文法の説明や教科書とは違った例文を考えるようにしました。新出の文法では「～のものだから」「～ところだ」「～なり」「～だけに」を教えました。この5つの文法だけでも説明



図 1 (1) 浴衣教室 記念撮影の様子



図 2 (4) 作文の授業様子

を考えるのにとっても時間がかかります。JICAの日本人講師の方に相談をすると、「ただ、文法を説明するのではなく、生徒さんに問いかけ、状況を想像させると良いです。」とアドバイスをいただき、この事を意識して準備をしました。実際の授業では壇上に立って授業を行い、生徒さんに質問をしながら、一緒に例文を作るようにしました。生徒さんは真面目で優しい方が多いため、私の未熟な説明を一生懸命、理解してくれましたし、沢山質問してくれました。

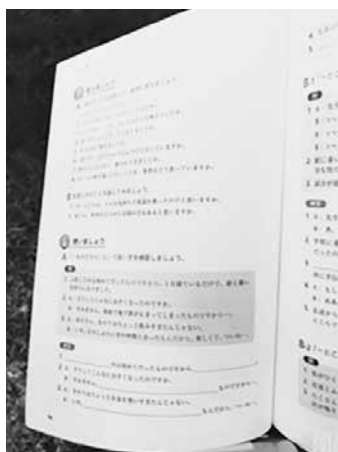


図 3(4) 作文の授業
参考テキスト

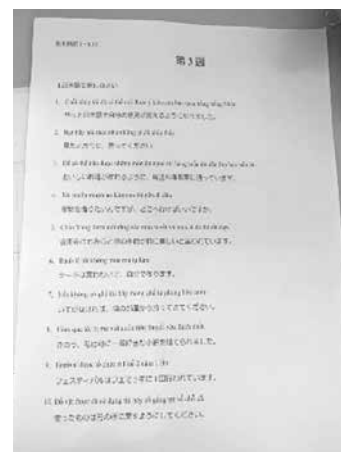


図 4(4) 作文の授業
配布プリント

3. 実習の感想・学んだこと

実習中に学んだことは多くありますが、主に感じた5点を述べたいと思います。一つ目は臨機応変さです。ベトナムでは前もって予定を立てるという習慣が日本と比べてあまりありません。そのため、物事が直前になって決まる事が多いです。最初は日本との違いに驚きましたが、徐々に慣れていき、冷静に判断出来る能力が身につきました。仕事をする上で臨機応変さは大切な能力だと思うので、とても良い経験になりました。二つ目は日本語を教える能力です。普段、感覚的に使っている日本語を説明する事はとても難しいです。ですが、実習中に様々な先生の授業を見学させていただいたり、アドバイスをいただいたりして、どのように説明するのが良いのか自分なりに工夫出来るようになりました。また、自分の説明で生徒さんが理解してくれた時、やりがいや喜びを感じます。日本語を教える機会が、またあればこの経験を生かして、よりわかりやすく説明できるようになりたいです。三つ目は言語学習についてです。実習中に多くの生徒さんに会いましたが、自分から積極的に会話をする生徒さんの上達が早いと感じました。私は現在、タイ語を履修しており、来年の留学までにタイ語能力試験5級を取りたいと考えています。中々上達が出来ず、とても悩んでいましたが、フエ外国語大学に来て、会話を重視するべきだと気づき、勉強方法を変えていきたいと思います。また、添削をしている時、丁寧に勉強している生徒さんの作文はとても読みやすかったです。ですので、言語学習では焦らずに、丁寧な学習をこころがけるべきだと思います。このように、私自身の今後の言語学習において参考になる事が多く、とても勉強になりました。四つ目は積極性の大切さです。フエ外国語大学では学生さんが積極的に発言や質問をします。生徒が主体的にならなければ、授業が進行しないような構成になっている授業もあります。アクティブラーニングの面でフエ外国語大学は大変、優れていると感じました。また、休み時間に職員室に来て個人的に作文を見てもらっている生徒さんもいます。このことから、自分は受け身の姿勢でいるという事に気づき、後期からは主体的に物事に取り組みたいと思うようになりました。五つ目は目標を持つ事の大切さです。フエ外国語大学の生徒さんは将来の目標を明確に持っている方が多く、その目標に向かってひたむきに努力しています。自分の将来像や今何をすべきなのかを考えて行動しており、このような生徒さんと交流するなかで、自分もより将来の目標を明確にし、それに向かって行動をしなければならないと感じました。残りの大学生活をどのように過ごすのか決める重要な手がかりになったと思います。

4. まとめ

今回のインターンシップを通して大学生活における目標が明確になったと思います。インターンシップに行く前はなんとなく東南アジアに興味がありました。しかし現地で日本と大きく違う文化に触れたり、現地の人と交流する中で東南アジアについてより知りたいと思うようになりました。ですので、後期の授業では東南アジア論を受講し、卒業論文のテーマも東南アジアに関連した事を書きたいと思います。また、ベトナムでは仕事のやり方が日本とは全く異なり、最初は戸惑いましたが、徐々にその違いが面白いと感じるようになりました。ですので、将来、東南アジアの人と関われる仕事あるいは現地での仕事に就きたいと思うようになりました。

このインターンシップの良い点は沢山の人と関われる事です。フエの学生さんと沢山交流する中で、様々な考え方を知り、自分の意識を変えることが出来ました。また、日本人講師の方やベトナム人が日本で働けるようサポートするセンターの方など、現地で活躍する日本人の方にも多くお会いしました。文化の違いから海外で働く事は大変であると感じる一方、仕事のやりがいや楽しさを感じている人が多く、憧れる気持ちが強くなりました。また、フエ外国語大学の先生はとても親切で親しみやすい方が多いです。生徒と先生の距離も日本より近く、友達のように休み時間会話していた姿がとても印象的でした。大学の授業以外の時間にセンターで働いている先生や中学生、高校生に日本語を教えている先生もいます。大学の授業を行うだけでも大変であるのに、学外の活動に積極的に参加している事を知り、驚きました。自分の仕事に対して熱意を持っているからこそ出来る事であり、自分もそのような仕事を見つける事ができたら良いなと思います。



図5 生徒さんとの交流の様子

5. 謝辞

この度は、3週間にわたるインターンシップに参加させていただきありがとうございました。学部長のチャー先生をはじめ、ビザの手続きをしてくださったツイニー先生、授業の調整や連絡をしてくださったニュー先生には特にお礼申し上げたいと思います。今回、一部ではありますが、授業を体験し、仕事の面白さと大変さを実感いたしました。最初は慣れない事や分からない事が多くありましたが、先生方が親切に接してくださり、楽しみながら経験を積むことが出来ました。また、大学の学生さんと交流する機会を沢山、作っていただき、本当にありがたく思っています。3週間という短い期間でしたが、大変多くの事を学ばさせていただきました。本当にありがとうございました。

学部／学科：国際学部 国際学科 学年：3年 氏名：矢吹 美帆
実習先：フエ外国語大学
実習期間：令和元年9月9日～9月27日



1. 実習先の概要

実習先：フエ外国語大学
住所：57Nguyen Khoa Chiem, Hue city

2. 実習内容

- ① 日本語学部の授業見学、サポート
- ② 作文の添削
- ③ 浴衣の着付け教室
- ④ 日本語サークル「話そう会」への参加
- ⑤ 学生との交流

2.1 実習スケジュール

※スケジュールは日ごと、週ごとに異なる

1・2コマ 7:00～8:40
3・4コマ 9:00～10:40
5・6コマ 13:00～14:40
7・8コマ 15:00～16:40

表1 9月19日のスケジュール

8:00～	浴衣の着付け教室
11:00～	昼食、授業の準備
15:00～	作文の授業参加
17:00～	学生と交流

2.2 実習内容詳細

(1) 日本語学部の授業見学、サポート

日本語学部の授業で、見学、授業のサポートをする。日本語学部の授業は、作文、会話、聴解、音声学、異文化、日本地理歴史など様々なクラスがある。作文や文法の授業では私たちが実際に学生に文法を教えることができた。また、会話の授業では学生との会話に混ざり、間違っている言葉や文法を直す作業などを行った。基本的には自分が興味のある授業を選んで参加することができるが、学生は私たち日本人が授業へ行くととても喜んでくれるという理由から、先生方から授業に入ってほしいと頼まれることもあったため、様々な授業に参加することができた。



図1 (1)授業の見学の様子

(2) 作文の添削

学生が書いた作文を添削する。作文といってもだいたい200～400字程度のものである。

添削する量は特に決められていないので、自分で添削する量を決めることができる。作文のテーマは身近なものなので学生は書きやすいと思う。どのように訂正すれば学生がわかりやすいか考



図2 (2)作文添削

えるのが大変だった。また一人ひとりの作文に短いコメントを書いて、学生とのコミュニケーションツールにした。

(3) 浴衣の着付け教室

浴衣の着付け教室は、JICAの日本人の先生2人と私たちインターンシップ生2人で行った。着付け教室は1日3時間（1時間ごとに学生が交代する）を3日間という日程だった。1日目は浴衣の着方とたたみ方、2日目は帯の結び方、3日目は自分たちで着て写真撮影をした。浴衣は日本文化室にあったため、日本から持っていなくても大丈夫だった。着付けの練習をする時間は現地に行ってからでもあったが、日本で完璧にしていくとよりよかったと思う。



図3 (3)浴衣の着付け教室の様子

(4) 日本語サークル「話そう会」への参加

「話そう会」とは、フエ外国語大学の日本語サークルである。2年生が主体となって活動していて、活動内容は日本語を使ったゲームなどをして日本語に触れる機会を作ることだ。私たちが活動に行った日は1年生が入って初めての日だったそうで、約60人の1年生が参加していた。1年生は9月に入学したばかりだったので日本語が話せなかったが、一緒にひらがなの並び替えのゲームをして仲良くなれた。



図4 (4)「話そう会」活動の様子

(5) 学生との交流

学生との交流は主に授業が終わったあとに夜ご飯を食べに行ったり、休日に観光地に連れて行ってもらったりした。食事のときは、旅行では絶対に行かないようなローカルなレストランに行くことが多かったので現地の食事を体験するいい機会になった。学生との交流は学生が日本人とたくさん会話ができるので、新しい日本語を覚えたり練習したりする勉強にもなると感じた。

3. 実習の感想・学んだこと

今回のインターンシップの実習で学んだことや感想は大きく3つある。まず一つ目が、フエ外国語大学の学生から学んだ積極性である。学生は授業中積極的に発言したり手をあげたりしていたため、授業に対しての意欲を感じることができた。この光景は日本ではあまり宇都宮大学では見られないので学ぶべきところだと思う。また、ある学生が「今一生懸命勉強をして、将来よい仕事に就きたい」と言っていた。そのとき私が3年生になって大学に慣れて忘れかけていた、「宇都宮大学になぜ入学したか」という初心を思い出すことができた。さらにコミュニケーション能力が高い学生ほど日本語能力が高いと感じたので、うまく話せなくてもコミュニケーションを取ろうとする姿勢が大切だと思った。

二つ目が「日本語教師」という仕事の楽しさや苦勞である。日本語教師は日本語を教えることはもちろん、日本文化についても紹介する必要がある。そのため日本語教師は授業の準備、作文や課題の確認だけではなくて日本文化に関するイベントの準備や参加もしなければいけないとても忙し

い職業だと感じた。実際に私もどのように説明すれば学生が文法を理解してくれるかを考えるのにかなり試行錯誤した。しかし、学生に日本語の文法を教えてわかってくれたときや、「教えてくれてありがとうございます」と言われたとき、学生の素直で元気な笑顔を見たときは、忙しくて大変な仕事ではあるがこちらも元気になったり嬉しくなったりして、とてもやりがいを感じる仕事だと感じた。

三つめは日本文化のすばらしさを改めて感じたことだ。特に浴衣の着付け教室に参加してみて、実習前は人に教えるどころか自分で浴衣を着ることができなかったが、実習後には自分で着ることができ人に教えることもできるようになった。さらに浴衣はどのような体型の人にも似合うようにできていて、その人らしさを表現できると知り、浴衣のすばらしさについて学ぶこともできた。

4. まとめ

今回フエ外国語大学で実習をした経験は将来のキャリア形成に非常に役に立つと思う。実習に行く前までは日本語教師についてほとんど何も知らなかった。しかし実習を通して日本語教師の楽しさややりがいを感じることができ、とても興味を持った。これから就職活動が始まるが、日本語教師という仕事も視野に入れて考えたいと思う。さらに、海外で働くということを経験してみて日本では当たり前だと思っていたことが当たり前ではないなど、多くの文化の違いを感じることができた。実習の前から海外で働くということに興味があったが、この実習を通して海外で働きたいという気持ちがより強くなった。この実習から海外で働くためには臨機応変に対応することが大切であるということなどを学ぶことができ、将来もし海外で働く機会があるときは実習での経験が役に立つと思う。

5. 謝辞

フエ外国語大学日本語学部みなさま、この度は3週間のインターンシップ実習を快く受け入れていただきありがとうございました。学部長のチャー先生をはじめ、実習前の準備段階からメールでのやり取りを通して私たちをサポートしていただいたトゥイニー先生、私の担当をしていただき、授業の連絡や書類の作成などをしていただいたビー先生には特にお礼を申し上げたいと思います。

実習に行く前までは不安なことや心配なことがたくさんありましたが、先生方が優しく声をかけてくださり、私がなにか質問があるときもすべての先生が快く答えてくださいました。そのおかげで実習中は何不自由なく本当に楽しみながら貴重な経験をすることができました。さらに、授業以外でも学校で会ったときに声をかけていただいたこと、フエ外国語大学の学生以外とも交流の機会を設けてくださったこと、大変嬉しく思います。

またフエ外国語大学の先生方のみではなく、学生にもとてもお世話になりました。空港についてからのお迎えや空港までのお見送り、買い物や観光に連れて行ってもらったりしたこと、フエの料理をたくさん紹介してもらったこと、すべてが一生の思い出で、たくさん交流ができたことがとても嬉しく、学生たちのおかげで楽しく充実した生活を送ることができました。学生にもよろしくお伝えください。

今回の実習はフエ外国語大学の多くの人たちの協力があったからこそ大きなトラブルもなく無事に終了したのだと思います。実習中にどんなときでも私たちを温かく見守ってくださった先生方、私たちとたくさん交流をしてくれた学生のみなさんへ感謝申し上げます。またお会いできる機会がありましたらその時はぜひともよろしく願いいたします。フエ外国語大学の皆様、本当にありがとうございました。

学部／学科：地域デザイン科学部 コミュニティデザイン学科 学年：2年
氏名：佐藤 望生



実習先：たんぼぼ保育園

実習期間：令和元年9月3日～9月20日

1. 実習先の概要

実習先所在地：ベトナムダナン

事業内容：園児が自立することを目的としていて、塗り絵やリズム遊び、体づくり運動など様々な活動があり毎日園児が成長していく環境づくりをしている。朝7時から夕方5時までの保育、さらには土曜保育も行っている。朝・昼ともに完全給食である。さらに育ち盛りの園児が元気いっぱい走り回ることができる大きな園庭もある。

2. 実習概要

2.1 実習スケジュール

- 1週目（9月3日～7日）りんご2（3歳児）クラス
- 2週目（9月9日～14日）すいか1（5歳児）クラス
- 3週目（9月16日～20日）ぶどう2（4歳児）クラス

2.2 実習詳細

(1) りんごクラス

①1日の流れ

登園	
朝ごはん	園児の食事介助、食べ終わった子とおもちゃ遊び、トイレ整列補助
朝の会	朝の歌を歌って、先生のお話を聞く、お話を聞いていない子の見守り
室内遊び	太鼓遊びやダンス、ブロック、塗り絵など
水分補給	飲み終わった子のトイレ整列補助を行う
外遊び	1～3歳児までのみんなでダンスを踊ってから、園庭の遊具で遊ぶ
着替え	園児の着替えの補助、トイレ整列補助を行う
お昼ごはん	給食の準備・配膳・給食室への片付け・教室掃除を行う食事中は食べていない子の食事補助をした
昼寝	ベッドの準備・寝かしつけののち2時間ほどお昼寝そののちベッドの片付け、女の子の髪の毛を結びなおす
おやつ	おやつ準備・片付け、食べない子への補助
室内遊び(2)	ブロック遊び・おままごとなどをしながらお迎えを待つ
降園	

※午前中の活動は日によって前後することもあったがおおむねこのような流れだった。

②実習活動

実習途中で体調を崩してしまい、自分の活動を行うことができなかった。

(2) すいかクラス

① 1日の流れ

登園	
朝ごはん	園児の完食見守り、食べ終えた子とのおもちゃ遊び 食器の片付け。椅子や机は園児が片付ける。
朝礼	日本語とベトナム語で朝の歌を歌う。
室内活動	テーマに沿ったお絵描き、工作、運動、歌などその日によって様々。
水分補給	園児が各々水筒を取ってきて飲むのを見届ける
(外遊び) 自由遊び	晴れていて適温な場合は30分ほど外遊び。 自由遊びは園児が各々好きな遊び（ブロック・絵本・人形遊びなど） を選んでグループごとに遊ぶ。
着替え	
お昼ごはん	給食室から給食を運んでくる。配膳・片付けは園児が行う。食べる のがゆっくりな子の様子を見ながら一緒に給食を食べる。給食室へ の片付け・教室清掃を行う。
昼寝	ベッドの準備・片付けは園児が行う。蚊帳を張り、2時間ほどお昼寝。
おやつ	おやつ・ミルクの準備。給食室へ食器の片付け
出し物のダンス練習	※
終礼	日本語とベトナム語で帰りの歌を歌う
自由遊び	午前中と同様。
降園	

※週末の土曜日に保育園の合同誕生日会があり、クラスごとの出し物があったためそのダンスの練習を行っていた。

② 実習活動

○ やきいもグーチーパー

はじめに手遊び歌を行った方が、より園児がメインの活動へ集中してくれると教えていただき、動きがわかりやすいこの歌を導入として行った。自分の活動を始める前に、クラスで少し音楽を流し何回か遊んだので、歌が曖昧でも動きを真似してくれたり、じゃんけんの部分だけ参加してくれたりする子もいた。ただ、歌自体が単調になってしまいがちだったので、スピードが速い・遅い以外の工夫も必要だったと感じる。

○ 折り紙紙風船でのあて

紙風船ならではの、ゴム（風船）と違った手触りや温かみを感じてもらふこと・自分で折ることで“世界にたった1つの自分の紙風船”という愛着を持ってもらうことの2点を目的として折り紙で紙風船を作ること活動を選んだ。また、作った風船でのあてをすることによって、遊び方の多様性を伝えることも目的とした。活動のはじめの方は緊張してしまって説明する声が小さくなってしまったり、折る手順の説明が不十分になってしまったりしたが先生方に助けられて、うまく折れる・折れないはあっても、園児それぞれが紙風船を完成させることができた。あてでは、はじめは倒れたあてを私



写真1 紙風船をみんなで折る様子

や先生が直していたが、途中から園児たちが自分たちで直したり距離を伸ばしてみたり自分たちでルールを工夫して遊んでいたのが自主性の醸成にも繋がったのではないかと思う。

(3) ぶどうクラス

① 1日の流れ

登園	
朝ごはん	朝ごはんを食べ終えた子と遊ぶ。教室清掃を行う。
朝礼	日本語とベトナム語で朝の歌を歌う。
ダンス・お勉強	30分ほど踊る。その後、その日のテーマについて先生の質問にみんなで答える。(物の数え方・木の部分の名前を覚えるなど)
水分補給	飲み物の準備。園児の見守り。
外遊び	園庭で遊具や地面に絵を描いて遊ぶ。園児の見守り。空になった水筒に水を補充する。
着替え	着替え終わった子と一緒に遊ぶ。なかなか着替えない子の誘導を行う。
室内遊び	粘土・ブロック・ぬいぐるみ遊びなどそれぞれ分かれて遊ぶ。
お昼ごはん	机の準備、給食室から給食を運ぶ。配膳して、食べていない子の様子を見ながら一緒に給食を食べる。その後教室清掃。
お昼寝	園児が運びやすい場所へベッドを移動、蚊帳を張る。寝かしつけをして、2時間ほど一緒にお昼寝。
おやつ	おやつ準備。ゴミが出たら都度回収して、教室清掃。
終礼	日本語とベトナム語で帰りの歌を歌う。
自由遊び	おままごととブロック遊びの2つに分かれ、お迎えを待つ。
降園	

② 実習活動

○ やきいもグーチーパー

すいかクラス同様、メインの活動に集中してもらうためこの手遊び歌を選んだ。事前に歌を練習するのを忘れていて、活動の30分ほど前にあわてて流したためみんなで作るのは難しかったが、動きを真似て楽しんでいる子も何人かいたので良かった。活動の最後にもう1度みんなで遊んだのだが、先生が工夫して大きい焼き芋・小さい焼き芋といったアレンジをしてくれて1番盛り上がったので、自分にもこういうアイデアが思いつけばより楽しんでもらえたかなという反省がある。

○ エピカニクス

ぶどうクラスに上がる前にこの曲を踊るクラスが多いため、みんな振り付けをしていて説明に時間がかからないと教えていただき、この曲を準備体操の曲として選んだ。今回の活動が体を動かすのが主だったので、ほどよく体をあたためながらスムーズに次の活動に進むことができた。

○ 障害物リレー

教室のベンチを使った平均台、新聞紙の輪っかくぐり、立てられた積み木から1つ取って別の場所に重ねるといった3つからなるリレーをした。平均台について、数日前のクラスの活動で行っていたため、園児たちも混乱せず楽しめていたと思う。ただ、全体に対する説

明を曖昧にしてしまったことで、勝敗がどっちつかずになってしまっていてすごくもったいなかったと思う。

○むすんでひらいて

活動の締めとして、クールダウンの意味も含めみんなで1つの輪になって遊んだ。通常のむすんでひらいてとは違った、“ひこうきぶんぶん”“かえるぴよこぴよこ”などの歌詞がでてくるものを選んだため、大きな動きが多く最後まで体を使って遊ぶことができた。音源が想定していたものとは違うというトラブルもあったが、先生方みんなで歌ってなんとか持ちこたえることができ、とてもありがたかった。また、1つの輪になったことで先生や園児の表情を見ながらやることができた。



写真2 新聞紙の輪っかをくぐる様子

3. 実習の感想・学んだこと

3歳児クラスでは、室内遊びでお絵描きや塗り絵をすることが多かったが、単色で塗りたくっていたり線や点を意味もなくかいているように見えても（例えば、リスを茶色できちんと塗りつぶしたりして）その子なりの物に対するイメージの表れなのだと思った。また、おままごとをしているときに調味料を入れる動作や口紅を塗る動作をしている子がいて、周りの大人の様子をよく見ているのだなと感心したとともに大人の行動が子供に与える影響の大きさを感じた。

4歳児クラスでは箸をうまく使えるように“野菜だけはきちんと箸で食べる”という教えが徹底していて、食育へのこだわりを感じた。また、保育園は集団生活の場であるが、その中で1人1人違う個性をどう伸ばせばいいのだろうかという個の重視の難しさを感じた。

5歳児クラスは、3歳児と比較すると室内遊びのバリエーションが増え、男女の遊び方の違いもより顕著になった気がした。また、お絵描きという活動1つをとっても、目に見える外の情報を絵に描くということを重視していて、より教育の色が強いと感じた。私や他の園児が困っているとき（例えば、汗をかいている・誰かにいたずらされているなど）に気づくことができる子が何人もいて、相手の気持ちを察する優しさに感動した。

どのクラスにも遊びやごはんのときに意地悪してくる子がいたのだが、あえて怒らずにそのまま遊んでいたら満足して何もしてこなくなる子が多かった。つまりこのことはかまってもほしい気持ちの裏返しであり、その子の行動の背景（家庭環境など）を考えるととても悲しくなった。先生方が頑張っただけで子どもたちを自立させようとしても、結局家庭で甘やかしてしまえばその習慣がついてしまうため、保育園で教えることの意味や教育の無力感を感じてしまった。日々の保育において、先生同士・先生と保護者・保護者同士・保護者と園児のコミュニケーションは重要であり、それらがあってこそ信頼関係の醸成に繋がると感じた。幼少期に身についた習慣は「3つ子の魂百まで」とことわざで言われるように、大人になってからそう簡単に直せるものではない。家庭でのしつけ、学校での教育、どちらかだけでは子どものためにならず、両者とも“教える”ことはすごく責任がある。また、実習中の3週間だけでも仕事がハードでへたってしまいそうになることがあったし、実際に体調も崩してしまった。10月から日本では幼保無償化が始まったが、待遇が改善されなければ、本来持っていたはずの子どもが好きという気持ちや働くやりがい失われかねず、現在の環境改善の方が早急の課題ではないのかと思った。

4. まとめ

今回、自分の分野とはあまり関わりがないと思っていた“保育”という分野に触れて、自分の興味の広がりを実感した。私は子どもと触れ合う機会が今までの人生で全くと言っていいほどなく、今回のインターンシップに向かう前は不安でいっぱいだった。しかし実際行ってみると目に入るものすべてが新鮮で、特に建物や現地の人々から地域特性を見てとることができたり、保育園の中でも子どもたちの行動や性格から背景にどのような家庭環境が秘められているのか考えたりすることができた。一見関わりのないような分野でもどこかで結びついていることがわかり、常に自分の大学での学びから知らないことを知っていくことができる過程がとても面白かった。さらに、帰国してからも実習で学んだことから新たにやりたいことが増えていって、直接自分の希望する進路に関わってこなくても非常に得るものが多かった。2年生の夏という早い段階でインターンに行くことには迷いもあったが、結果的に自分の興味はどこにあるか精査したり、逆に（前述したように）興味関心を広げることもできたため、あえてこの時期に行って良かったと思う。また、今回学年も学部も違う2人で実習を行ったことで、同じ実習先においてもクラスが違うのはもちろん、異なる視点で物事を捉えていたりして話をすればするほど自分の考えが豊かになっていくようで3週間ワクワクした毎日を過ごすことができた。

5. 謝辞

この度、インターンシップを受け入れてくださったたんぽぽ保育園の先生方の皆さま、3週間大変お世話になりました。特に、実習クラスであるりんごクラス・ぶどうクラス・すいかクラスの先生方には子どもたちを見守るといっただけで大変なのに、日々暖かいサポートをしていただき、毎日保育園に行くのが楽しみでした。また、リン先生・ハン先生には、ベトナム語と日本語の意思疎通を図ったり、自分の活動をよりよくするために尽力していただきありがとうございました。

さらに、有本家の皆さまとは実習中の日々の生活を共に過ごし、本当の家族のような3週間を過ごすことができました。はじめの週に体調を崩したときも優しく手を差し伸べてくださって、心身ともにとても心強かったです。最後に渡航前から帰国後まで支援してくださった、国際インターンシップ事務室の栗原様・佐々木様に感謝申し上げます。今回のインターンシップに関わってくださった皆さま、本当にありがとうございました。



写真3 ぶどうクラス全体写真



写真4 すいかクラス全体写真

学部／学科：国際学部 国際学科 学年：3年 氏名：宇川 梓
 実習先：たんぼぼ保育園
 実習期間：令和元年9月3日～9月20日



1、実習先の概要

1.1 所在地

ダナン（ベトナム）

1.2 事業内容

日本式の教育にこだわっていて、教室や机などは日本の保育園らしいつくりになっていたり、食事前には「いただきます」と日本語で言ったりするなど、このスタイルが取り入れられている。大阪府にある生野こもれび保育園と姉妹校の協定を結んでいたり、早稲田大学の「さおぼぼ（この団体は以前このたんぼぼ保育園に笛を贈る活動をしていて、ベトナム語で笛を意味するサオと、たんぼぼ保育園の名称にちなんだ団体名）」というボランティアサークルが毎年定期的にダナンを訪れてワークショップを行って園児たちと交流したりするなど、日本とのつながりが多くある。園長先生やアドバイザーの先生は日本で研修を行った経験があるため、日本語を流暢に話すことができる。また、クラスの先生の中にも日本の保育園で研修をしたことがある方もいる。

1～5才児がこの保育園に通っており、学年ごとに各クラス20～25人程度の園児に対し、2～3人の先生が配置されている。保育園は朝食・10時ごろのジュース・昼食・3時のおやつを土曜も含め毎日提供している。昼食の給食では肉じゃがやカレーなどの日本食もメニューとして用意しており、野菜やフルーツなどを取り入れている栄養バランスが考えられた食事を提供している。

2、実習概要

2.1 実習スケジュール

1週目（9月3日～7日）：りんご1組（3才児）

2週目（9月9日～14日）：すいか2組（5才児）

3週目（9月16日～20日）：ぶどう1組（4才児）

表1 実習スケジュール（1日の流れ）

時間・活動	活動内容
7:45 登園	タクシーで通勤し、10分程度で園に到着
8:00 朝食	園児の食事介助、給食室に食器等を運搬
8:20 朝の会	朝の歌を歌い、日付や曜日等を確認
8:40 室内活動	お絵描き、ダンス、歌
9:30 外活動	遊具やダンスなど、校庭で体を動かす
10:00 着替え	体操服から私服に着替える園児の補助
10:10 水分補給	ジュースを飲んで、水分補給
10:20 室内活動	積み木、ブロック、おもまごと
11:15 給食配膳	おかず、ご飯、汁ものを配膳
11:30 昼食	園児と一緒に食事をとりながら、食事介助
12:15 お昼寝の準備	食器等を給食室に運んだ後、机を動かして床を掃除し、ベッドを置く
12:30 お昼寝	寝付けない園児たちに添い寝、先生もこの時間で休憩・作品づくり
15:00 おやつ	起床後、おやつを食べ牛乳を飲む
15:30 室内活動	保護者の迎えを待ちながら、おもちゃなどを使って遊ぶ
17:00 降園	タクシーで帰宅

補足：9月4日 開園式（正装のアオザイを着て、式に参加）

子供たちや先生方が出し物をして、新学期の式典を行った。獅子舞などの出し物もあり、子供たちは怖がっていたが盛り上がった。

9月7日 秋祭り（バンブーダンス担当になり、先生方の補助）

ココナッツの葉で鳥や魚などのおもちゃを作ったり、冷やしたヨーグルトや手作りのクッキーを食べたり、ゴム飛びなどもした。

9月14日 たんぽぽ保育園の7周年記念祭（昼間の式と夜のパーティーに参加）

昼間の式では、各クラスが出し物を行い、9月生まれの子の誕生日祝いも行った。夜のパーティーは園庭で行われ、私たち学生も含めてみんなでダンスを披露したりカラオケをしたりした。

2.2 実習内容詳細

(1) りんご1組

りんご組は3人の先生がいたが、一番大変なクラスだった。前回この実習先に行ったインターン生から話は聞いていたが、食事介助や着替え補助に苦戦した。有本さんがおっしゃっていたのは、お金を少しでも多く稼ぎたい家族が早く食事を済ませたいがために、家族がスプーンで口元まで食事を運んであげていて、子供たちはただ口を開けていればいいという現状があるということだった。そのために、給食の時間になると自発的に食べようとする子は少なく、家族と先生が協力するべき食育が全然されていなかった。特に、野菜嫌いの子が多く、これは家で野菜を食べさせていない家庭も多いためである。さらに、親からご飯を食べさせてもらっているために、飲み込む力が弱く、必然的に食べるスピードが遅い子もいた。着替えの補助も同様に、自分で服を脱いで、服を着て、脱いだ服をきちんとたたむことができる子もいたが、ほとんどの子は他のことをしたり他の子にちょっかいを出したりしてスピードが遅かった。食事と着替えに関しては、自分でできる子が少なく、ほとんどの子がぐずぐずして全体的に行動が遅かったように感じた。これらに対して、指示する言葉（「座って」「食べて」「並んで」等）をベトナム語で言えるようにして、子供たちが言うことを聞いてくれるように意識した。できるだけベトナム語で話したほうが、子供たちとコミュニケーションを取ることができるし、言うことを聞いてくれるようにもなった。

【活動】

金曜日の6日に、私が中心になって授業を行った。前日の木曜日のお昼寝の時間を使って、私、有本先生、リン園長先生、3人のクラスの先生方の6人で活動のミーティングを行った。私は、野菜をなかなか食べてくれない子供たちに向けて、野菜をテーマにした授業をしたいと思ったため、「やさいのうた」と、「チーム対抗やさいレース」を提案した。このときに、リン園長先生がベトナム人の先生方に向けて翻訳をしてくれて、その先生方から三才児ができなさそうなことに関して、アドバイスをいただいた。

実際の活動日では、まずベトナム語で自己紹介をした。これは必須ではなかったが、できるだけベトナム語で話したほうが、子供たちの関心を引き付けられるのではないかと考えたためである。自己紹介をした後、みんなに野菜を食べしてほしいという旨を伝えて、ベトナム人の先生に野菜の絵がかいてある画用紙を持ってもらいながら「やさいのうた」をお手本として私が歌って、それからみんなで歌った。次に、野菜にちなんだチーム対抗レースを行った。これは、園児たちを2チームに分けて、机の下を潜り、簡易ベッド



図1 「やさいうた」をうたう様子



図2 チーム対抗やさいレース

の上をハイハイで移動して、3つ床に並べてある小さいフ
ラフープの上でジャンプし、野菜のおもちゃを1つ取って
かごに入れて、次の人にバトンタッチするものである。

活動の反省としては、まず先生方がお手本をきちんと
見せてあげて説明することが重要だと感じた。お手本を
見せても、ベッドの上を歩こうとしたり、ルートを間違
えたりする子が見られたためである。また、ミーティン
グの際にレースではけんけんぱをさせたいという旨を伝えたが、3才児には難しいからジャン
プにしたほうがいいと先生方からアドバイスをもらって、自分が考えた活動でも子供たちのレ
ベルに合った内容にすることが大事だと思った。様々な反省点はあったものの、声が大きく笑
顔があったところ、専門で保育を勉強していないなりにアイデアを出していたところ、ベトナ
ム語を使おうとする姿勢が見られたところなどが、先生方に評価されて全体的には成功だった。



図3 りんご組 集合写真

(2) すいか2組

すいか組は最年長の学年で、前の週のりんご組に比べ
てできることが幅広くなるため、仕事に余裕が持てるよ
うになった。3才児はコップやおやつなどの軽いものし
か自分で運ばせず、先生方が給食を配膳していたが、5
才児は毎日グループごとにローテーションして自分の分
を運んだり給食の配膳や机を拭いたりしていた。食事中
も、食べてと言わなくても自発的にみんな食べていて、
好き嫌いする子も少なかった。しかし、やはり食育がきちんとされていない子は、食べるのが
遅く、いつも決まって同じ子が残って食べていて、クラス内でも差は見られた。着替えはもう
完全に補助がなくても、みんな自分たちで素早く着替えることができている、先生方のしつけ
がしっかりされているように感じた。5才児は3才児と比べてコミュニケーションが成立する
ため、遊びの時間も楽しく過ごすことができた。肩をマッサージしてくれたり、抱きついてく
れたりして、心優しい子が多く、3才児とはまた違った可愛さがあった。



図4 活動中の写真

【活動】

この週は、週末の開園7周年記念祭に向けて先生方がバタバタしていたのと、さおぼぼの学
生たちのワークショップがあったため、前の週のように
ミーティングをする時間をとることができなかった。あ
らかじめ有本先生に活動内容を伝えておいて、ベトナム
人の先生にそれを把握してもらった。

活動内容としては、前の週と同じようにベトナム語で
自己紹介をした後、雨季にちなんで「かえるのうた」を
輪唱し、体を動かすことが大好きな子供たちのために
「Cupid shuffle」というラインダンスを行うことにした。
「かえるのうた」はベトナム語でも歌えるように自身の
準備も行った。

活動の反省点は、子供がついてこられる進度を把握し
ていなかったために先走ってしまったり、歌やダンスを
するにあたって掛け声が小さくなったりしてしまった点
である。授業をするにあたって、笑顔はもちろん、声を
大きくして盛り上げながら、一つ一つのプロセスをこな



図5 授業の様子



図6 すいか組 集合写真

していくことが必要だと感じた。しかし、この日に取り扱った授業内容は、特に準備が必要なく、活動の空き時間に使ってもらえるため、これから使っていきたいと先生方がおっしゃってくれて、うれしく感じた。

(3) ぶどう 1組

このクラスは、園児が25人程いるのに対して先生方は2人しかいなかったため、きちんと子供たちを見ておくことに苦戦した。4才児は3才児よりできることは多くなるけれども、5才児のように周りを見て行動したりご飯や着替えを自分で行ったりと、身の回りのことが一人できるようになる成長段階の年齢で、できる子とできない子の差は、これまでの実習での2クラスに比べても大きいように感じた。でも、このクラスはやはり先生方の目に届く限界もあって、椅子に座るときに机に対してまっすぐに座れない子や、足をきちんと床につけず前の席の子の椅子に足を乗っけてしまう子、足を閉じて座るように注意してもなかなか治らない子など、全体的に落ち着きがなかった。また、おもちゃ遊びの際もいつもきまって同じ子がたくさんおもちゃを持っていたり、友達の分のおもちゃを無断で奪ったりしていて、自己中心的な面が多くみられた。食事をとっている際も、平気でご飯をこぼしたりお皿をなめたりする子もいて、私にとっては結構ショックな場面だった。このクラスに限った話ではないが、ご飯を机や床にこぼしながら食べる子は多くいた。理由は、お皿の上で食べ物を切り分けて、スプーンの上に乗ったものを口に運ぶまでの間に、目を離したまま食べているからだ。ここにも、家族が子供に食べさせてあげているという現状が表れていた。

【活動】

この週は、ミーティングを行う時間があり、私、有本先生、リン園長先生、クラスの先生方2人の5人でミーティングを行った。このクラスの先生は、ダンスが大好きなようで活動でダンスを踊ることが多かったが、洋楽のようなノリの良い曲ばかりで、子供向けではないように感じた。そのため、しまじろうの「ハッピージャムジャム」を教えることを提案した。さらに、私はあまり準備がいらなくて、大人数でも楽しめる内容を基本的に重視していたため、じゃんけんをして負けた人が勝った人にどんどんつながっていく「じゃんけん列車」のゲームを行うことにした。先生方は、まず少人数で子供たちに練習させてルールを理解させてから、全員でやったほうが良いとアドバイスをしてくれたため、それに則って行うようにした。

活動は、まずこれまでの実習と同じようにベトナム語で自己紹介をした。そのあと、「じゃんけん列車」にちなんで「汽車ポッポ」を振り付きで歌った。2回歌った後、「じゃんけん列車」のゲームをするのにあたって、ルール説明をし、それをハン先生に訳してもらった。まず、ミーティングでされたアドバイスをもとに、2チームに分けて練習させ、そのあとに全員でゲームを行った。ゲームが終わって全員一列になったあと、「汽車ポッポ」を流しながら教室内をぐるぐると回った。そのあと、「ハッピージャムジャム」を踊るのにあたって、10分ほど時間を使って1フレーズごとに振付を教えて、3回通してダンスを行った。

反省点として挙げられるのは、30分という授業時間が与えられていたのにも関わらず、要素を詰め込みすぎて、結局50分の授業になってしまったところである。後のスケジュールに



図7 絵を見せてくれている様子



図8 「じゃんけん列車」の様子



図9 ぶどう組 集合写真

余裕があったため、時間オーバーしてもいいよと先生方に言われたが、50分となるとみんな体力的にきつかったり、トイレに行きたがる子が出てきたりするため、時間内に終わるように内容を考えるべきだと思った。しかし、子供たちはすごく楽しんでくれて、クラスの先生にはダンスが気に入ってもらえたようで次の出し物に使うとおっしゃってくれて、子供たちが楽しんでくれることを最優先にしてきた自分の目標を達成することができた。

3、実習の感想・学んだこと

今回私がこの実習を希望した理由は、2つある。1つ目は、私は高校生まで保育士になることを目指していたが、たびたび報道されている仕事内容に見合わない給料の低さを知ってあきらめてしまったため、実際保育士の仕事に就いてみたら何か新しい発見があったり自分の中で何か納得ができるようになったりするのではないかと考えたためである。2つ目の理由としては、私は「ナムチャイ」というタイの貧しい家庭で育つ子供たちの教育支援を行う国際系ボランティアサークルに入っていて、そこで培った経験を実習で生かし、同じ東南アジアでも教育の差があるのかを知ることに関心を抱いたためである。

実際に実習をしていると、体力的にも精神的にも辛かった、というのが正直な感想である。給食室は4階にあるため、階段を使って重い給食を運搬するのはなかなか慣れなくて苦痛を感じた。子どもたちと触れ合っているけど、しつけがなっていない子が多くておもちゃでたたかれたり食事中に咀嚼したものを顔にかけられたりしたこともあった。朝早くから行う実習で、慣れない土地で早起きをして、クラス内では子供たちや先生方と言語が通じず、ストレスがたまることもあった。

特に、ご飯を食べてくれなかったり着替えが遅かったりする子に対してはイライラしてしまうこともあった。しかし、悪いのはこの子自身ではなく、周りにいる大人たちが原因だと思うと、子供たちの背後にいる家族の存在に苛立ちを感じることも多かった。子どもたちが自分から食事をとろうとしないのも、着替えが遅いのも、効率のために親たちが全部やってしまうからで、きっとそれが愛情だと勘違いをしているのだろうとも思った。そういう親が実際にいて、10歳くらいまで親に食べさせてもらう子は珍しくないという話を聞いて、衝撃的だった。自分の子を本当に想うなら、自立を支援していくことが親の役割の一つなのではないかと思うが、彼らにとってはそれが愛情のしるしであると同時に、自分はきちんと育児ができているという自己満足につながっているのかもしれない。まだ発達段階にあって社会というものを知らない、無限の可能性をもつ園児たちを見ると、やるせない気持ちになった。

また、子供と接するのだから言語はそれほど重視せず、常に笑顔でいれば何とかかなるだろうと安易に考えていたが、言語に関しては積極的に現地の言葉を使ったほうが良いとも考えるようになった。自分の想像以上に、子供たちは基本的な動作ができていないことが多い。この段階で、保育する立場にある人間がそれを見過ごしてしまえば、子供たち自身が一生悩むことになるのである。それを考えて、有本家の娘さんに使えそうなベトナム語を教えてもらって、使う場面と言葉を自分の中で一致させて、実習中使うように心がけた。日本語で話しかけることも多かったが、やはり表情だけでは伝わりにくいこともあるし、どれだけ怒っても褒めても、伝わらなければ意味はないと考える。言語習得に努力した分、子供たちは笑顔で返してくれることが多くなり、信頼関係の構築につながったと思う。

さらに苦労したのは、子供たちと遊ぶ中で、仕事をこなしていくことである。度々先生方に迷惑をかけてしまい、申し訳なく感じると同時に、周りの様子を見て動けない自分に対して嫌になることもあった。そういった反省をもとに、一日のスケジュールを確認して、自分から「給食を取りに行ったほうが良いですか」「掃除を始めていいですか」など、グーグル翻訳を使って先生方に質問するようにすることを心がけた。その結果、「あなたはできてるよ」とか「頑張ってくれてありがとう」と言われることが多くなって、仕事にやりがいを感じることもできるようになった。

大変に思うことも多い中、周りの方たちのサポートや子供たちの元気さ・かわいさがやる気になった。子どもたちにこれでもかと愛情を注ぎ、コミュニケーションをとり、とにかく話しかけることをやめないようにした。すると、子供たちはきちんと信頼をしてくれて、応えてくれるようになるのである。それが嬉しくて、辛い実習も乗り越えることができた。実習最終日に、「先生がみんなを叱るのは、立派な人になってほしいからなんだよ」とリン園長先生が翻訳をして私の気持ちを伝えてくれた。多分、まだ彼らに理解はすることができないかもしれないが、少しでも私のことを覚えていてくれたら、これ以上に嬉しいことはないように感じた。「バイバイ」というと、「ノーバイバイ（バイバイしない）」と言われて子供たちに抱きつかれて泣きそうになったが、愛情表現をするのが苦手な私がここまで気持ちを出せるようになったのは、この実習のおかげに感じた。

4、まとめ

この実習を通して、私は他人に寄り添って向き合える人間になりたいと思った。サークルでタイの貧しい村に訪れたときに感じたように、何か困っている現実があって、そのせいで誰かが苦しんでいる、という状況を見たら、誰もが助けてあげたいと思うのが当然であると考えている。でも、自分がその場にいることで自分が改善させることができるのかというと、むしろ無力に感じることもある。インターン生として参加した以上は、この教育事情を周知させて、今後の人生にどう生かしていくかが重要だと考える。

また、この実習中常に考えていた「教育の在り方」に関して、いろいろと考えることが多くなった。ベトナムの教育はちゃんとなっていないと思っていたが、それは自分が日本で教育を受けてきてその基準で判断しているだけだとも気づいた。日本のように集団を意識した教育もあれば、欧米の自由で個人を重視した教育など、さまざまな教育が世界には存在する。私が思うのは、正しい教育というものは存在しないことである。どの教育にも短所というものはあって、これが正解と掲げられているわけでもない。教育の仕方というものは常に悩みがある中で達成されていくべきものなのだと考えた。

実習中は8時から17時までの勤務だったが、先生の中には6時から18時までと朝早くから働いている方もいた。仕事内容も簡単なものではないし、試行錯誤で模索して行動する必要もあった。しかし、この実習を通して初めて、誰かに寄り添えて少しでも困っている人を助けられるようになりたいと思うようになった。これから就職活動を進めていく中で、このインターンが自己分析につながった面もあり、有意義な実習だったと感じた。この濃い経験を生かして、誰かに寄り添うためにはどうしたらいいのかを考えていきたい。

5、謝辞

この度は、非常に貴重な体験をさせていただく機会を設けていただいた、たんぽぽ保育園のリン園長先生、アドバイザーのハン先生、私を受け入れてくださったクラスの先生方、そして3週間お世話になった有本家のご家族の皆様、ありがとうございます。リン園長先生やハン先生には活動中に翻訳をしていただただけでなく、場の雰囲気も盛り上げていただいて、より楽しく活動を行うことができました。クラスの先生方も、一緒に仕事をする中でご迷惑をおかけしてしまうことがありましたが、フォローをしていただいて、大変助かりました。また、日常生活でもお世話になった有本家の皆様は、本当の家族のように受け入れてくれて、一緒に過ごした時間はかけがいのない思い出となりました。3週間も海外にいた経験がなく、持病もあって心配でしたが、おかげさまで毎日元気に過ごすことができたのは周りの皆様のサポートのおかげであると、確信しています。また、渡航前の準備から実習中も支援をくださった国際インターンシップ事務室の栗原様、佐々木様、本当にありがとうございます。私を受け入れてくださったすべての方々に、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

学部／学科：地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻

学年：1年

氏名：小川 喬平



実習先：Signart Design

実習期間：令和元年9月3日～9月20日

1. 実習先の概要

所在地：15Quang Trung street, Hai Chan District, Da Nang city, Viet Nam

事業内容：日本式建設・建築系のデザイン設計、内装インテリア業務、土地開発プロジェクト

2. 実習内容

住宅リノベーションの内装の提案

Lap An リゾート開発の提案

社内事業見学・現場見学

日本語教育

2.1 実習スケジュール

9 / 3 ~ 9 / 9 住宅リノベーション

9 / 10 ~ 9 / 17 Lap An リゾート開発

9 / 18 ~ 9 / 20 社内事業見学・現場見学

9 / 9 ~ 9 / 18 スタッフへの日本語教育

2.2 実習内容詳細

(1) 団地の1室の住宅リノベーション計画。現場調査の後、資料収集、ミーティングを経て日本風のスタイルでの提案をPower Pointにて行った。



図1 団地での調査の様子

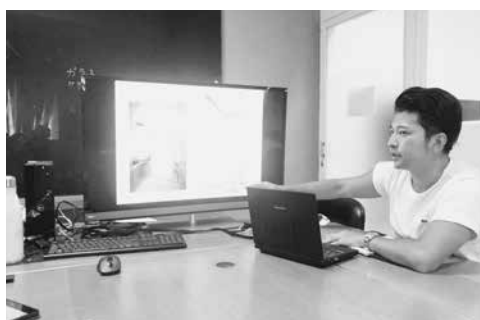


図3 プレゼンの様子

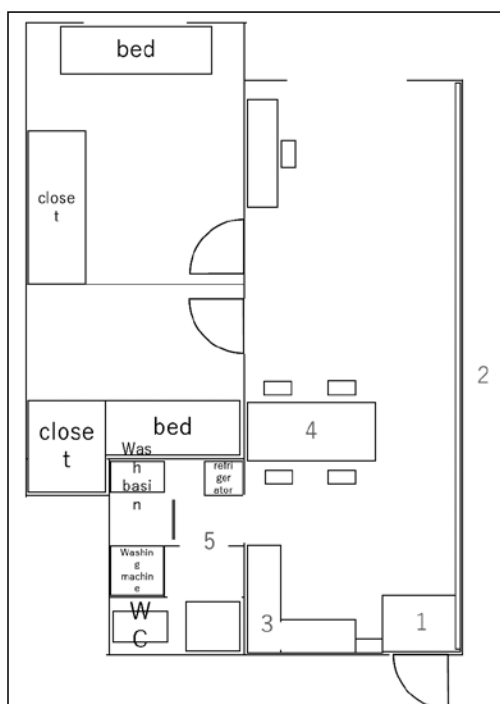


図2 提案した部屋の間取り

- (2) Lap Anのリゾート開発事業。指定の範囲内を日本風のリゾートに仕上げるための企画提案。実際に現場には行っていないが、資料収集、ミーティングを経て日本風のスタイルでの企画提案をPower Pointにて行った。

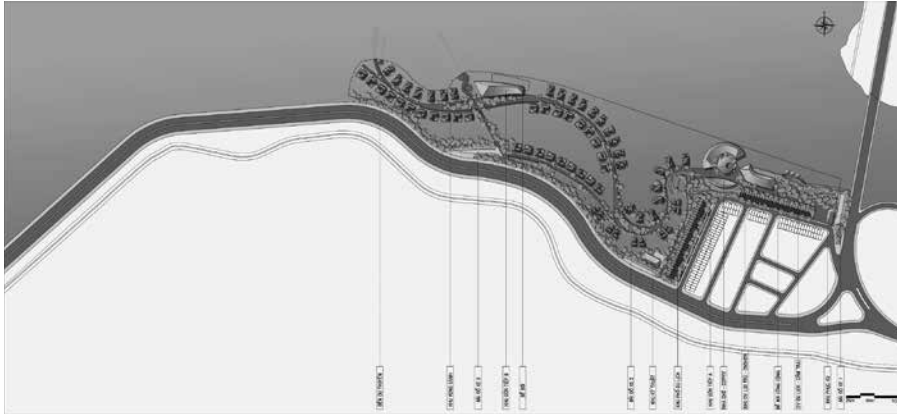


図4 Lap An 構想図

- (3) Signart Design 社で行っている事業の閲覧や社内での事業見学、現場での見学を行った。



図5 建設現場の様子1



図6 建設現場の様子2



図7 建設現場の様子3

- (4) 20～30分の日本語の会話練習等をスタッフに向けて実施。



図8 日本語授業の様子1



図9 日本語授業の様子2

3. 実習の感想・学んだこと

私が今回、国際インターンシッププログラムに参加した目的は大きく4つあります。

1つ目は、自分が将来海外で働きたいと考えている上で、その現地の人々と日本人の働き方（時間の使い方、職場の雰囲気、仕事への熱意等）の違いといったものを自らの肌で感じたいということです。これは、実際に3週間インターンシップとして受け入れていただきとても参考になりました。日本人と比べて心に余裕を持った働き方が私はとても好感が持てました。

2つ目は、日本からの依頼を受け事業を行うことが多い企業であるため、日本とベトナムをつなぐそれぞれの役割を把握したいということです。これにより、就職先を選ぶうえでとても参考になり、視野がとても広がったと感じています。

3つ目は、日常的な英会話ではなく、仕事という場面での英語能力を向上させたいということです。残念ながらこれに対しては、日本語を話せる方が多く、英語を話せる方が少ないといった状況であったため、あまり達成することはできませんでした。

4つ目は、自分自身が将来海外で働くための自信をつけたいということです。このインターンシップは私の海外での職場や生活への対応に対して大きな自信につながったと感じています。とても貴重な体験をさせていただきました。

4. まとめ

このインターンシップを通じて海外で働きたいという気持ちがとても強いものになったと感じています。仕事の内容としては日本の事業と比べると規模の大きいものが多く、こんな仕事に携わってみたいと感じることが多かったです。また、英語をもっと勉強しようという意欲の向上にもなりました。本当に海外でしっかりと働きたいなら、今のままではうまくコミュニケーションが取れないと、ひしひしと感じました。

今回の貴重な経験を活かし、今後の就職に、そしてその後の仕事での業務にもっと積極的に何事にも取り組んでいこうと思います。

5. 謝辞

この度はお忙しい中、3週間インターンシップとして受け入れていただきありがとうございました。スタッフの皆様にもとても親身に接していただき、私としてはとても過ごしやすい環境であったと感じています。この経験を無駄にすることのないよう、今後活かしていこうと思っています。本当にありがとうございました。

学部／学科：国際学部 国際学科 学年：3年 氏名：小倉 初菜
実習先：株式会社 INSAR TOURS & TRAVELS
実習期間：令和元年8月19日～9月7日



1. 実習先の概要

所在地：Lot 2598,2nd floor, Wisma Sandhu, Green Road, 93150Kuching,
Sarawak, East Malaysia

業務内容：ツアー日程作成、観光地案内、MICE 誘致とそれに伴う案内など

2. 実習内容

ツアー同行、植林活動への同行とお手伝い、ビジターズインフォメーションセンター研修、オフィス業務（大手観光企業の動向調査、日本国内のコンベンションビューロー調査、地元観光機関の調査など）

2.1 実習スケジュール

- 8月19日 ツアー同行（グヌンガディン国立公園）
- 8月20日 滞在期間の日程説明、お客様の送迎、オフィス業務
- 8月21日 オフィス業務
- 8月22日 ツアー同行（クバ国立公園）
- 8月23日 木下グループの学校訪問同行
- 8月24日 木下グループの植林活動同行
- 8月26日 ボルネオコンベンションセンタークチン（BCCK）訪問、オフィス業務
- 8月27日 オフィス業務
- 8月29日 緑の大地の会の高校及び森林局、日本人墓地訪問
- 8月30日 緑の大地の会の植林活動、セメンゴワイルドライフセンター訪問同行
- 9月3日 オフィス業務
- 9月4日 ビジターズインフォメーションセンター研修
- 9月5日 オフィス業務
- 9月6日 メインバザール調査、インターンシップまとめ発表

2.2 実習内容詳細

(1) ツアー同行

個人のお客様へのツアー同行。男性のお客様とご夫婦のお客様のツアーに同行。男性のお客様のツアーはグヌンガディン国立公園にてガイドの方の通訳をさせていただく。ご夫婦のお客様のツアーはクバ国立公園にてトレッキングに同行。

(2) 植林活動同行

2つの団体の植林活動に同行。木下グループでは訪問・交流した小学校と一緒に植林活動を行う。緑の大地の会では前日にサラワク森林局に訪問し植林についての取り組みを聞き、翌日に UNIMAS や地元の方と植林活動を行う。

(3) オフィス業務

主に以下の内容について調査、概要をまとめることを行った。
・サラワク州観光機関について調査を行い概要や情報をまとめる

- ・日本国内の自治体を1つ選び概要や業務内容についてまとめる（盛岡市のコンベンションビューローについて調査、まとめ）
- ・日本国内の大手旅行会社五社（JTB、HIS、近畿日本ツーリスト、阪急交通社、日本旅行社）が扱う販売重点地域を調査、その傾向まとめ
- ・サラワク州の観光地案内作成（サラワクのカヤックについて紹介文を作成、会社のホームページに掲載していただく）

3. 実習の感想・学んだこと

様々なことを経験させていただけたインターンシップだった。ツアーの同行ではガイドの方の説明を聞いて日本語に通訳するということをさせていただいた。ガイドの方の話をしっかりと聞き、分かりやすい日本語に言い換えるということはなかなか難しかった。また、専門的な用語が聞き取れないことや説明ができないことがあり悔しさを感じた。もっと勉強が必要だと感じた。また、トレッキングではお客様にもっとお声がけできればよかったと感じた。しかし、ご夫婦のお客様には1日みの同行だったが、その後同行したスタッフの方が、トレッキングの次の日にご夫婦から「小倉さんは同行しないのか」という質問をされたことを教えてくれた。またその次の日も同じ質問をされたということで、お客様に覚えていただけたことが嬉しかった。

植林活動は二回も同行させていただくことができ、商業植林と保全植林の違いや植林がその地域にもたらす雇用などについて知るいい機会となった。また、植林活動では団体の方を案内する機会でもあったが、団体の方を案内することや参加者の方の行動をまとめることの難しさを痛感した。また、自由行動の際に確実に人数を把握していないと集合した際に問題が起こりうることも感じた。そのような失敗をしてしまい強く反省した。

4. まとめ

最後の日に社員の皆様から「もっと積極的になってもいいのではないか」というお言葉をいただいた。実際に、もっと確認すればよかったこと、もっと質問すればよかったことなどがあったが、「迷惑になるのではないか」「以前説明されたことではないか」などと考えてしまい自分から話しかけることができなかった。また、そのほかにも事前準備をもっとした方がいいことや自信を持って発信した方がいいことなど様々なアドバイスをいただいた。自分でも気づいてはいたけれども直せていなかったりする点や、自分でも気づいていなかった点を指摘していただけたことが今回のインターンシップで得た一番の学びだと思う。将来質問しなかったことや確認しなかったことで不利益を被ることもあると思う。そのためにも分からない点や確認したい点は周囲の方に積極的に話を聞きに行くことを心がけていきたいと思う。また、準備は何においても重要なことであるから、将来どの職に就いたとしても役に立つことである。また、自信を持って話すことで説得力が生まれる。このようにいただいたアドバイスは将来どの職になったとしても役立つことであるため、心がけて生活していこうと思う。

5. 謝辞

INSARの皆様、至らぬ点多々あったと思いますが、受け入れ、ご指導していただきありがとうございます。短い時間ではありましたが、ツアーの同行や植林活動など様々な経験をさせていただきました。その一つ一つが私の大事な思い出であり、経験です。皆さんが私にアドバイスしてくれた積極性ですが、なかなか実践するのは難しいと感じています。ですが、皆さんがくれたアドバイスは大事にこれからの将来に活かして生きていきたいと思っています。大変お世話になりました。本当に貴重な経験をありがとうございました。

学部／学科：農学部 応用生命化学科 学年：3年 氏名：中野 美波
実習先：INSAR TOURS & TRAVEL SDN.BHD
実習期間：令和元年9月11日～9月26日



1. 実習先の概要

マレーシアサラワク州のクチンにある旅行会社で、パッケージ・ツアーや手配旅行などの旅行業や国際会議等のコーディネート、テレビや映画の撮影取材コーディネートなど業務内容は一般の旅行業だけではなく多岐にわたる。

2. 実習内容

2.1 実習スケジュール

9月11日	資料のコピー、観光地の調査
12日	セメング野生動物センターへのツアー同行、日程説明、観光産業の概要説明
13日	グヌンガディン国立公園へのツアー同行
14日	自由課題
15日	自由課題
16日	自由課題
17日	平常業務
18日	MICE についての説明、平常業務
19日	Visitor's Information Center にて研修
20日	植林地の視察
21日	自由課題
22日	自由課題
23日	平常業務
24日	バコ国立公園へのツアー同行
25日	クバ国立公園へのツアー同行
26日	平常業務、インターンシップ総括発表

2.2 実習内容詳細

(1) 事務所での平常業務

午前8時に出社、12時から13時の昼休みをはさみ17時に退社というスケジュールであった。主に自主課題を行っており、その内容はサラワク州における観光プロダクト調査とリストの作成、サラワク州観光機関の調査と概要や内容のリスト作成、サラワク州ツアーの日程作成である。

サラワク州における観光プロダクト調査では、サラワク州にある観光地や文化的な場所についてインターネットやパンフレット、実際にその地を訪れることによって調査し、それをレポートにまとめた。

サラワク州観光機関の調査と概要や内容のリスト作成ではサラワク州観光局やサラワク州森林局などの観光機関について概要などを調べ、レポートにまとめた。

サラワク州ツアー日程の作成では観光プロダクト課題で調べたことなどを生かして、家族旅行向けのツアー日程を作成した。

(2) ツアー同行

ツアーに参加した観光客の方々と共に、国立公園や野生動物保護施設などを訪れた。以前訪れたことのある場所があったり、自主課題とつながるところがあったりし、観光客の方からの質問に答えるなど役立てることができた。

(3) Visitor's Information Center での研修

観光案内所にて1日研修をさせていただいた。主な業務内容は観光案内所を訪れた観光客へ観光地や交通機関を案内すること、メールでの質問に返答することであった。私は誤った情報のメールに対する返答を一緒に考えさせていただいたり、案内所内の装飾品の片づけ等の手伝いをした。

3. 実習の感想・学んだこと

実習を通してたくさんのことを学ぶことができた。業務に関しては、相手がいる仕事においてどのようなことに気を付けるべきなのか、求められているのは何かを考えて仕事をするのが次につながるということ、信頼されるためにどのような態度でいるべきのかなど仕事に関する知識やスキルだけでなく精神面などにおいても非常に多くのことを学ばせていただいた。植林地の視察に行かせていただいた際には、環境問題を今まで以上に身近に感じることができた。また、私が現地に到着してから約2週間の間、ヘイズという森林火災による大気汚染が発生していた。学校が休校になっていたり、現地の人も屋外にいるのを控えていたり、常緑の樹木が落葉しているのを見かけたりと日本にはなかなか気づくことができない問題に直面した。

また、私はもともとあまり英語が得意ではなく、現地に行くまでは自分のレベルで仕事に関する話などできるのだろうかということに不安を感じていた。しかしマレーシア人のスタッフの方々と交流を通して、自分の英語力であってもどうにか伝えようとする意志を持っていれば伝えることができるということや、英語に自信がないからといって受け身になってばかりでなく、積極的に行動すれば人とのコミュニケーションをより一層楽しむことができたり、仕事においては、次の仕事につながったりするのだということ学んだ。



図1 植林された樹木

4. まとめ

今回の実習は、自分の将来の選択においてとても重要な経験となった。今回実習させていただいたのは旅行会社であり、私がもともと志望していたのは異なる業種であった。しかし今回の実習を通して旅行業という仕事に興味を持った。また、単に旅行業に興味を持つきっかけとなっただけでなく、自分が全く知らないような業界、地域にもとても魅力的なものはたくさんあり、もっと社会を広く見る必要があると感じた。また、海外で働くというのはとても貴重な経験であり、今まで漠然と考えていた海外の人と働くということがより現実的に考えられるようになった。今回学ばせていただいた仕事におけるスキルや考え方などはこれから社会に出る際に必ず必要なことであり、それを学生のうちに学ばせていただけたことは今後においてかなりプラスになった。また、海外で活躍している日本人の方々を間近で見て、日本人らしい丁寧な仕事に加え、多民族国家に対応してそ

それぞれの人種の違いを理解してうまく仕事をしているのが印象的であった。そのうえで大切なことはやはりコミュニケーション能力と相手に信頼されることであり、どのような態度でいればいいかなど近くで見ることができたからこそ気づくことができたことがあった。

今回させていただいた貴重な経験を今後の進路選択や、社会に出て実際に働く際に生かしていこうと思う。

5. 謝 辞

お忙しい中インターンシップを受け入れていただいた酒井社長、鍋嶋さんをはじめ INSAR の皆さんには大変お世話になりました。ご指導いただいたこと、生活面に関しても配慮をしていただいたこと、大変ありがたく思います。皆様のおかげで大変充実した実習を行うことができました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

INSAR TOURS & TRAVEL SDN.BHD.					
LOT 2598, 2 nd Floor, Wisma Sandhu, Green Road, 93150 Kuching, Sarawak East Malaysia					
TEL : 082-248112		FAX : 082-424112		E-mail : insar@tm.net.my http://www.insar.com	
旅行会社				ご担当者	様
ツアー名	家族で行くサラワク州クチン3泊4日			旅行時期	20年 月 日 ~ 月 日
月日	発着	時間	交通	予定	食事
1日目	KCH 着		MH	クチン空港にご到着後、 ホテルへご送迎、チェック・イン ＜グラント・マルガリータ・ホテル泊＞	朝) X 昼) X 夜) X
2日目		11:30	バン	ホテルにて朝食後、サラワク・カルチュラル・ビレッジへ 施設内の観光 (ロングハウス内の見学等) シアターにて伝統的な舞踊を鑑賞 カルチュラル・ビレッジ内で昼食 伝統的な舞踊を体験 サントボン国立公園へハイキング ダマイ・セントラルの海鮮レストランで夕食 (サンセットを鑑賞しながら) ホテルへ送迎 ＜グラント・マルガリータ・ホテル泊＞	朝) ホテル 昼) カルチュラル・ビレッジ 夜) 海鮮レストラン
3日目		9:00	バン	ホテルにて朝食後、セメンゴ野生動物センターへ オランウータンの餌付け見学 ジョン・クロコダイル・ファームへ ローカルフードの屋台で昼食(ラクサヤコロミーなど) クチン市内のフォトスポット巡り (オランウータンのウォールアート、猫の像など) ホテルへ送迎 ＜グラント・マルガリータ・ホテル泊＞	朝) ホテル 昼) ローカルフード 夜) X
4日目	KCH 発		バン MH	ホテルにて朝食後、ウォーターフロントを散策 出発まで自由行動 (メインバザールで民芸品の買い物等) クチン空港へご送迎	朝) ホテル 昼) X 夜) X
ご料金 (2名様以上)			ツインご利用のお一人様料金	シングルご利用	お一人様追加料金
＜上記料金に含まれるもの＞*航空運賃は含まれません。 ①ホテル宿泊費 ②朝食3回/昼食3回/夕食2回 ③上記送迎費 ④上記ツアー費 ⑤日本語ガイド					
＜備考＞ *マレーシアでは2017年9月1日宿泊より、旅行者に対して観光税 (tourism tax) が導入されることになりました。外国人旅行者は、1泊1室に対し、RM10をチェック・イン時にお客様ご自身よりホテルのフロントでお支払い頂きます。					
御見積提出日	2019年 9月 26日			担当	中野 美波

サラワクのプロダクト

○ Culture 歴史・文化・宗教

マレー系や中国系、インド系、先住民族などさまざまな民族が共存し、それぞれが特徴的な文化やライフスタイル、言語をもつ。実に 45 もの異なる言語、方言、宗教が存在している。また 19 世紀半ばから 20 世紀半ばにかけて白人王による統治や、第二次世界大戦中日本による占領の歴史を持ち、今もその歴史や文化の象徴となる施設が多数存在する。

* Kuching クチン

- ・ Sarawak Cultural Village サラワク文化村
さまざまな民族の暮らしが再現された施設。伝統的な舞踊の体験や、伝統的な住まいに宿泊することができる。
- ・ Little Chinese Rest-Hut
中国の伝統的な、対称的に造られた八角形の小屋。2003 年にクチンのウォーターフロントに再建された。
- ・ Chinese History Museum 中国人歴史博物館
中国系の人々が住むエリアに建てられた、中国式ではない建物。サラワクの中国人入植者の遺産・文化・生活が記録されている。
- ・ Tua Pek Kong Temple
クチンで最も古い中国式の寺。福建の言葉で「偉大な大叔父」と呼ばれる。奉られている神はさまざまな言語の人々から祈りを捧げられている。何度かの再建を経て、1770 年から同じ場所に存在している。
- ・ Fort Margherita フォートマルゲリータ
1879 年にクチンの川を海賊から守るために建てられた。今はブルックギャラリーとしてサラワクのブルック王朝時代の歴史や伝説を展示している。唯一受けた攻撃は第二次世界大戦中の日本からの空襲だけである。
- ・ The Astana アスタナ王宮
クチンのウォーターフロントをはさんで反対岸にある。チャールズブルックが妻のマーガレットへの結婚のプレゼントとして建てた。二度占領された歴史があり、一度はレイン・ラジャによって、二度目は第二次世界大戦中に日本軍によってである。サラワクの占領の歴史を物語る建物。
- ・ The Square Tower スクエアタワー
1879 年にクチンウォーターフロントの東端に建てられた。もともとは刑務所として使われていたが、今ではさまざまな用途に使われ、ダイニングレストランとして使われたりもする。
- ・ Rajeh Charles Brooke Memorial チャールズブルック王記念碑
政府によって建てられた、二代目の白人王 Sir Charles Brooke の記念碑。四角柱のような形をしており、それぞれの角に 4 つの言葉で文章が書かれたブロンズのパネルが埋め込まれている。
- ・ Old Courth House オールドコースハウス
1871 年にサラワク政府の裁判所として建てられた。ローマ人の裁判所に影響を受けたデザインで、屋根にはサラワクのテツボクが使われている。
- ・ Japanese Building ジャパニーズビルディング
第二次世界大戦中に日本人によって造られた唯一の公的建造物。
- ・ The Round Tower ラウンドタワー
もともとは軍事的な目的で建てられた簡素で要塞のような建物。フランク・マクドーガルによって診療所が開かれた。今はサラワク手工業評議会の本部として使われている。
- ・ The Pavilion Building (Textile Museum) 織物博物館
ニューオーリンズのクレオールにある別荘のような様式でデザインされた建物。1920 年代半ばは病院などとして使われた。第二次世界大戦中は日本軍が戦略的活動の中心地として使用していた。
- ・ The Central Post Office 中央郵便局
1931 年に完成してから使い続けられている郵便局。デニス・サントリーによってデザインされたシンプルで壮大な建物。サラワクで唯一、正面に円柱の柱がたっているコリントス調の建物。

- ・ The Main Bazaar メインバザール
ウォーターフロント沿いに連なる商店街。伝統的な布製品、コショウなど現地の名産品を売る店が多数ある。週末の昼間は観光客でにぎわう。

* Miri ミリ

- ・ Gardwara Sahib Miri (Silk Temple)
1919年に作られ、第二次世界大戦中、日本からの空襲によって破壊されなかった数少ない建物のひとつ。今はシーク教の集会所となっている。
- ・ AT-Taqwa Mosque
ミリのムスリムのための中心的なモスク。

* Sibu シブ

- ・ Civic Centre Heritage Mini Museum
先住民族や中国系移民に関する骨董品や民芸品、写真、文化的なものが展示されている。
- ・ Tua Pek Kong Temple & Goodness of Mercy Pagoda
100年前に建てられ、シブの中で最も古い寺院。訪れた人はフレンドリーな住職に会うことができる。
- ・ Bawang Assan Iban Longhouse
シブの中心地からボートまたは車で40分のところにある。イバン族のロングハウスの中を見学でき、文化などについて英語で説明してもらえる。

○ Nature & Adventure 自然と野外活動

サラワクは生物多様性の宝庫で、熱帯雨林の生態系は世界でもっとも多様な場所のひとつである。多数の国立公園や生物の保護施設が存在し、珍しい生き物たちに会うこともできる。また、海でのダイビング、洞窟探検、ロッククライミング、ジャングルトレッキング、マウンテンバイク、パラグライダー、ウィンドサーフィンなど自然を活かしてさまざまな野外活動ができる。

* Kuching クチン

- ・ Bako National Park バコ国立公園
近隣の村からボートで20分のところにあり、海と熱帯雨林、マングローブが隣り合っている。テングザルなどの珍しいサルや、世界中でここにしか生息していない食虫植物が見られる。
- ・ Gunung Gading National Park グヌンガディン国立公園
トレッキングをしながら熱帯雨林の自然が観察できる。日本では見られない珍しいカエルやトカゲなどが生息している。運がよければ開花したラフレシアを見られることもある。
- ・ Kubah National Park クバ国立公園
熱帯雨林の植物を間近で観察しながらのトレッキングを楽しむことができる。たどり着く先には滝があり、真下まで行って水しぶきを感じることができる。
- ・ Talang-Satang National Park
真っ青な海に囲まれた国立公園。絶滅が危惧されているアオウミガメやタイマイが産卵しに上陸してくる。ウミガメの保護活動ツアーも開催されている。
- ・ Tanjung Datu National Park タンジュン・ダトゥ国立公園
サラワクの海岸線の先端にある、サラワク最小の国立公園。ボートでのみ行くことができ、その美しさから、訪れた人に「ボルネオの天国」と呼ばれる。
- ・ Kuching Wetlands National Park クチン・ウェットランド国立公園
クチン市中心地から15km、ダマイビーチから5kmのところにある。国立公園内にある河口はシブ海とサラク川に面しており、マングローブの生態系を見ることができる。
- ・ Windcave & Fairy Cave Bau Kuching ウィンド・ケイブ、フェアリー・ケイブ
インドネシアとの国境近くのサラワク川川岸で、1000年以上もの年月をかけて作られた鍾乳石や石筍を見ることができる。

- ・ Santuboug National Park サンチュボン国立公園
クチンの市街地から北に 35 キロメートルほど、ダマイ半島に位置する。サンチュボン山の頂上や、泳ぐことができる滝つぼを目指したハイキングが人気。
- ・ Sama Jaya Nature Reserve サマ・ジャヤ自然保護区
クチンの市街地にジャングルの一部を抜き取ってきたような場所がある。都会人の憩いの場であると共に、研究機関としても重要な場所である。
- ・ Semmengoh Wildlife Centre セメング野生動物センター
保護された半野生のオランウータンの餌付けが見られる。生まれたばかりのオランウータンが見られることもある。
- ・ The Matang Wildlife Center マタン野生動物センター
クバ国立公園の西端に位置する。動物園ではなく、オランウータンやサイチョウなど保護された半野生の動物たちを見ることができる。オランウータンの餌作り体験ができる。
- ・ Jong's Crocodale farm ジョン・クロコダイル・ファーム
巨大なワニを数多く飼育している施設。ワニが水面からゆっくりと餌を狙う姿を間近で見られる。他にも日本ではなかなか見られない熱帯の生き物たちを見ることができる。

* Sri Aman スリ・アマン

- ・ Batang Ai Resort
サラワク最大の、人によって作られた湖。水力発電計画の一部として作られた。オランウータンの住処やイバン族のロングハウスはこの近くにあり、ロングハウスには宿泊することも可能である。
- ・ Meludam National Park メルダム国立公園
近くのロングハウスからボートを使っていくことができる泥炭沼の国立公園。そこにはシルバーリーフモンキーやカニクイザルなど珍しいサルや二種類のサイチョウなどが生息している。

* Bintulu ビントウル

- ・ Similaju National Park シミラジュ国立公園
東シナ海に面する 40kmもの砂浜がある。そこを歩くと、波が砂浜に打ち付ける音とココヤシなど熱帯の植物が立てるさわさわといった音のコラボレーションが楽しめる。

* Miri ミリ

- ・ Gunung Mulu National Park, world heritage グヌムル国立公園世界遺産
世界最大の自然の洞窟で、世界遺産に登録されている。山の地形は不思議な蜂の巣状の洞窟になっていて、すべての人の冒険心をくすぐる。
- ・ Lambir Hills National Park, Miri ランビルヒルズ国立公園
サラワクで二番目に大きい街ミリから車で30分の距離にある国立公園。科学者が世界でもっとも生物が多様だと認めた場所。
- ・ Niah National Park ニア国立公園
東南アジアで見つかったもっとも古い遺跡のひとつ。遺跡には壁画などが残され、4万年も前に人が住んでいたという痕跡が残る。
- ・ Logan Bunnut National Park ローガンバンナット国立公園
ベラワン族によって名前をつけられた、650haもの面積を持つサラワク最大の湖。2～4月は水位が減少し、湖は姿を消す。季節によって違った景色が観られるのも魅力のひとつ。
- ・ Mir iCrocodile Farm and Miri Zoo
3000匹以上のさまざまな種類のワニが飼育されている。そのほかにも近隣に生息している動物や鳥、蛇なども見ることができる。
- ・ Sibuti Coral Reefs シブチサンゴ礁
マレーシアでもっとも新しく見つかったダイビングスポットのひとつ。さまざまな種類のサンゴ礁や海の生き物たちを見ることができる。
- ・ Hawaii Beach ハワイビーチ
ミリの中心地から19kmの位置にある。海水浴や、ココナッツの木の下での日光浴を楽しめる。川岸の近くでは釣りをする人も多い。

* SibU シブ

- ・ Bukit Lima Nature Reserve ブキット・リマ自然保護区
シブの中心地にあり、現地の人々に人気のある施設。39種類もの鳥が生息しているためバードウォッチングを楽しむことができる。他にもさまざまな植物、哺乳類、昆虫などが生息している。
- ・ Rejang Mangroves National Park ラジャンマングローブ国立公園
マングローブが広がっており、海岸線を塩による侵食から保護している。テングザルやシルバーラングールの住処となっている。他の小動物やさまざまな魚を見ることもできる。

○ Food 食

さまざまな民族の伝統的な食べ物、特徴的な調味料、野生の植物などを使った料理がたくさんある。また、さまざまな民族の料理が融合して出来上がった、ここにしかない料理が魅力的である。同じ料理でも、ハラールとノンハラールでは違ったトッピングや味付けになる。

- ・ サラワクラクサ
ラクサはマレーシアだけでなくシンガポールやインドネシアでも食べられている、スパイスの効いた麺料理。サラワクラクサはマレー系やインド系などさまざまな民族の伝統的な香辛料が使われているのが特徴。
- ・ コロミー
黄色い縮れ麺に、チャーシューやひき肉、蒸し鶏などが乗った混ぜ麺。スープはねぎやにんにくなどで味付けされている。
- ・ トマトクイティオ
クイティオは米粉から作られた日本のきしめんのような麺。トマト味で味付けされているのはサラワクならではの。
- ・ ウマイ
先住民の伝統的な料理。生の白身魚に柑橘系の絞り汁と唐辛子で味付けをしたサラダ。
- ・ ブランチャン ミディン
ミディンというぜんまいのような山菜を、ブランチャンというえびを発酵させた調味料で炒めた料理。
- ・ ロティ
薄焼きのナンのような食べ物。卵やチーズ入りのおかず系や練乳入りのデザート系などさまざま。カレーのようなソースをつけて食べる。

○ Festival 祭り

サラワクでは、それぞれの民族の伝統的な祭りや収穫祭、近代的な音楽祭などが各地で開催されている。

- ・ Gawai celebration
5月31日と6月1日に祝われる毎年恒例の先住民族の祭り。
- ・ Hari Raya Aidilfitri
中国の旧暦の元旦の時にはopenhouseといって、家に友人などをたくさん集め、新年を祝う。
- ・ Rainforest World Music Festival
クチンで開催される、ワールドミュージックの多様性を祝うミュージックフェスティバル。毎年三日間開催される。
- ・ World Harvest Festival
サラワク文化村で毎年4月に、さまざまな先住民族が集まり開催される収穫祭。

サラワク州観光機関の調査と概要や内容の情報リスト

・Ministry of Tourism Malaysia

正式名称 Ministry of Tourism, Arts and Culture Malaysia (マレーシア観光芸術文化省)。観光省は1959年に発足された。「2020年までにマレーシアを世界クラスの観光地として発展させ、芸術、文化、遺産に基づく国民のアイデンティティを構築すること」をビジョンに掲げている。大臣はYBダトゥク・モハマディン・ビン・ケタピ。

・Ministry of Tourism Sarawak

Sarawak Tourism Board (サラワク州観光局)は1994年に発足された。「観光客を増やす」、「民族間や、メディア、公に対して観光という面での多様性について、地域や国際的な方面の両面において認知を広げる」、「サラワクを文化、自然、そして冒険心をくすぐる最高の観光地にすること」を目標に、「サラワクを真っ先に行きたい旅行の目的地にすること」をビジョンに掲げている。大臣はY.B.Datuk Haji Abdul Wahab Bin Azizで、クチンにあるオーロラプラザの5階に本部がある。

・Tourism Malaysia マレーシア政府観光局

1972年に発足された。「マレーシアを優れた観光の目的地に、そして観光産業を国の主要な経済成長の要因にすること」をビジョンに、「マレーシアを優れた観光地にする」、「マレーシアだけにある不思議や驚き、文化を披露する」、「マレーシアでのMICEを増やす」、「マレーシアへの観光客の数を増やすことで観光収入を増やす」、「観光を振興し、マレーシアの産業へ関連付ける」、「国内観光を援助し、国内での新たな投資を促進し、同様に雇用の機会を増やす」、「観光の成長は経済成長と生活の質を向上させる」ということを目標に掲げている。局長はDatuk Ahmad Shah Hussein Tambakau。世界に28ヶ所の支店があり、日本にも東京と大阪の2ヶ所がある。そこではホテルや観光情報の提供、ツーリストポリスカウンターや両替所を設置している。

・MATTA Sarawak Tourism Board MATTA サラワク州観光局

MATTAはマレーシア国内の旅行業界全体を代表する機関で、地元のツアー及び旅行組織、並びに多数の海外提携を含む約3400の組織によって構成されている団体で、メンバーは増加し続けている。マレーシアでの旅行、観光産業へ関心を持たせることを目的としている。

・Sarawak Convention Bureau サラワクコンベンションビューロー

サラワクコンベンションビューローでは、MICEや州のビジネスイベントなどを開催している。サラワクでの会議、企業イベント、開発、マーケティングを促進する上できわめて重要な場所である。サラワクスタイルの会議が強力なビジネス成果と楽しい体験を提供することで、世界の会議の主催者に求められることをビジョンに掲げている。

・Forest Department Sarawak サラワク州森林局

「世界的に認識される持続可能な森林管理」をビジョンに、「社会経済、環境において持続可能な森林資源の管理と開発」をミッションに掲げている。主な働きは、森林資源の管理で、完全保護区(TPAs)と永久森林地区(PFEs)の条例を施行している。

・Sarawak Forestry Corporation サラワク州森林公社

サラワク州森林公社は持続可能な森林の管理、保護の要点として、1995年に連邦議会に認められて設立された。サラワクの森林を責任を持って献身的に管理、保護している。森林収入を集める、収穫のコントロールとコンプライアンスの施行、完全保護区(TPAs)の管理、野生動物の保護、森林調査や開発の指揮、森林で働く労働者の教育、永久森林地区(PFEs)の経営、管理が主な働きである。

・Sarawak Tourism Federation サラワク観光協会

クチンのウォーターフロントにある政府機関で、サラワクコンベンションビューローで会議を計画する人に、参加者に適した書類を作成したり、経済的な援助をしてくれるところを探すなどのサポートをしている。また、NPO、専門団体、協会、財団、企業は収益性、より大きな研究や教育の導入などの社会的な責任、貿易とビジネスの利益、サラワクの前向きな宣伝であるという条件にしたがって資金の援助を受けることができる。

学部／学科：国際学部 国際学科 学年：3年 氏名：高崎 達也
実習先：株式会社キャム タイ工場
実習期間：令和元年9月2日～9月22日



1. 実習先の概要

所在地：Amata City Chonburi Industrial Estate700/147 Mool Tambol
Ban khao, Amphur Panthong, Phan Thong, Chonburi 20160, Thailand
事業内容：精密プラスチック金型及び成形品並びに関連部材の販売

2. 実習内容

人事・総務部、購買部、営業部における業務の学習及び体験、改善提案

2.1 実習スケジュール

- 9月3日 Manager Meeting (Weekly)、オリエンテーション、工場見学に参加
- 9月4日 Labor Government 訪問に同行
人事・総務部の業務内容について学習
- 9月5日 日本人スタッフのための労働許可申請に同行
労働法、社会保障について学習
- 9月6日 社員の採用課程について学習
求人サイトを利用し採用の流れを体験
- 9月9日 社員の教育・訓練の方法、人事・総務部の業務について学習
教育・訓練の書類作成、提出の流れを体験
- 9月10日 Manager Meeting (Weekly)、Monthly Meeting 参加
- 9月11日 総務部の業務について学習、体験
- 9月12日 購買部、営業部、経理・財務部の業務について学習
会社が行う環境活動について学習
- 9月13日 会社の安全管理について学習、体験
- 9月16日 購買部の業務について学習
- 9月17日 Manager Meeting (Weekly) 参加
営業部の業務について学習
- 9月18日 改善提案考察
- 9月19日 プレゼン準備
- 9月20日 プレゼンテーション

2.2 実習内容詳細

(1) 人事部の業務

人事部では、従業員の労務管理に関する業務を行っている。私が実際に学んだ業務としては、従業員の勤怠登録と新入社員の採用課程が挙げられる。勤怠登録については、タイの労働法や社会保障制度、会社の福利厚生制度について学んだのちに、それをもとに残業代などのデータを入力し給与を計算した。さらに、その給与が正しいことを各従業員から承認してもらい、銀行にデータを送るという一連の流れを学んだ。新入社員の採用課程については、JobThai というタイの求人サイトを利用し、実際に会社が希望する人材を探してメールを送った。採用する側から様々な求職者を見ると、職歴や訓練歴が豊富で、英語やオフィスソフトを使いこなせ

ような条件の良い人材は責任のある立場に就いていることが多く、採用するためにかかるコストは大きいということを知った。

(2) 総務部の業務

総務部では、会社を円滑に回すための様々な業務が行われている。私が学んだ主な業務としては、社員の業務訓練や会社内の安全管理が挙げられる。業務訓練は、部署ごとに社員に必要な知識や技術を設定し、それをもとに訓練計画を作成・実施し、実施後は訓練の記録と有効性評価を行うという工程を経る。会社内の見回りでは、毎朝、敷地内の設備に不良がないか、ごみは分別されているか、駐車場が規定通りに利用されているかなどの確認と、月一で工場内の防災用品と消火器などの確認を行った。また工場内も見回り、危険な箇所を見つけ出しそれを改善するという CCCF 活動も体験した。その他にも、社用車の利用予定・ガソリン代・走行距離の管理、社用携帯代の管理、備品の購入申請の確認と承認、社員旅行や新年会の計画立案、日本人スタッフの航空券やホテルの予約・労働許可の申請、ごみ処理や電気代のコスト管理、工場排水の確認など、業務内容は多岐に渡る。

(3) 営業部の業務

営業部では、会社の営利活動の起点となる業務を行っている。主に行っている営業には大きく分けて二種類あり、既存顧客の維持と新規顧客の開拓がある。後者においては、メールや電話で連絡を取り、その後プレゼンや工場を見てもらうという流れを経ることで契約を獲得できる。その後、顧客からの見積もり依頼書を受け取り、それを社内の様々な部署に確認し、最終的な見積もりを顧客に提出する。そして商品が届く前はもちろん、届いた後にも顧客との窓口となることで、会社間の仲介役としての役割を果たしている。会社の仕事の起点と終点がいずれも営業部にあるため、会社の利益は営業部の業績に大きく左右されると考えた。

(4) 購買部の業務

購買部では、工場で使用する原材料の購入を行っている。具体的には、各部署からの購入申請の受け取りとその確認、購入先選定、発注書送付、納期確認、製品の受け取りと確認、購入先の評価、経理部に書類提出という工程を経る。私は実際の購入申請書、発注書、供給業者からの了解確認書を確認し、購買という大きくお金を動かす業務に関しては、そのコストの詳細を明示し、多くの人の承認を得る必要があると知った。また、購買部には BOI という海外から工場の設備や原材料を輸入する課があり、ここではその免税申請を行っている。

(5) Meeting

Meeting は一日一回、週一回、月一回行われるものの 3 種類に分かれ、各部署のマネージャーとそれに準ずる立場の人、通訳が参加する。所要時間や密度はそれぞれ異なるが、基本的に行う内容としては、各部署の計画に対する実績の確認、計画未達成箇所の改善点の発表、今後の計画の確認、であり、異なる部署間での情報共有の場として機能している。私たちインターンシップ生は傍聴しているだけであったが、実際の会議の様子を知り、ビジネスの現場で必要とされている能力（課題発見・解決する力、プレゼン力など）を知ることができた。

(6) プレゼンテーション (改善提案)

実習最終日には、実習期間中に体験したことの中から改善点を考え、その内容についてのプレゼンテーションを行った。発表資料は日本語と英語で作成し、プレゼンテーション中は日本

語を使用した。具体的な内容としては、①勤怠システム、②排水溝、③トイレの悪臭、の3点における問題点を指摘し、それに対する改善方法について発表した。実際のコストや改善のためにかかる手間、改善することによって得られる利益、実現可能性など、様々な観点から考察したつもりではあったが、プレゼンテーション終了後に指摘を受けることで、自分の改善提案ではまだカバーしきれていない観点があることを知った。そのため仕事でのプレゼンには、自分ひとりではなく多くの人からの意見やアイデアを取り入れることで、より建設的なプレゼンができること学んだ。

3. 実習の感想・学んだこと

私の今回のインターンシップには、様々な仕事を体験して仕事とはどのようなものであるかを知ること、日本と異なる海外での仕事を体験することで今後の職業選択の参考にすること、海外で働くことを通して国際的なビジネスの現場で求められている能力を知ること、など多くの目的があった。実際にインターンシップに参加することで、その目的は達成することができたと考える。特に最後の「国際的なビジネスの現場で求められている能力」については多くの学びがあった。株式会社キャムはタイの日系企業ということで、基本的に使われている言語はタイ語と日本語であったが、書類の作成や会議でのプレゼンテーション、外部との連絡、などの事務的な業務の多くを英語でも行っていた。そのため現代のビジネスにおいて英語能力はほぼ必須であり、私も今後身に付ける必要があると感じた。また、月に一度の Manager Meeting において各部署のマネージャーのプレゼンテーションを見ることで、データを整理する力、見やすい資料を作成する力、分かりやすく説明する力、改善点を見つけて解決する力、など仕事をする上では多くの能力が必要であることを知った。上記のような能力を大学生の間に身に付けることで、社会に出たときに円滑に業務を行うことができると考えた。

4. まとめ

今回のインターンシップでは、人事・総務部をはじめ営業部や購買部の業務、日々の Meeting への参加、社外業務への同行など、総合的な会社の仕事について学ぶことができた。そのため、私は国内外合わせて初めてのインターンシップということもあり、今後のインターンシップや就職活動のための基礎知識を身に付けることができたと考える。しかし今回は実際の業務に関わるというよりも、勉強して知識をつけることがメインであったため、今後日本で参加するインターンシップでは今回学んだ知識を基に、より実践的な業務にも挑戦したい。

5. 謝辞

この度はお忙しい中、貴社のインターンシップに参加させて頂きまして誠にありがとうございます。インターンシップで実際に貴社の業務を経験させて頂き、その中で改善提案を自ら考えることで、会社として常に改善を求めることの大切さについて理解することができました。また、人事・総務部をはじめとして、購買部や営業部の業務、さらには Manager Meeting にも参加させて頂くことで、仕事とは何か、仕事をする上で求められている能力は何か、など多くのことを学ばせて頂きました。今回学んだことを、今後の就職活動に活かせるように努めてまいります。末筆ながら貴社の益々のご発展と、皆さまのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。今後ともよろしく願いいたします。

参考文献

・株式会社キャム ホームページ (<https://kkcam.co.jp/publics/index/26/>) 2019/09/24 閲覧

学部／学科：工学部 機械システム工学科 学年：3年 氏名：靱山 泰陽
実習先：株式会社キャム【CAM PLAS (THAILAND) CO.,LTD】
実習期間：令和元年9月2日～9月22日



1. 実習先の概要

所在地：Amata City Chonburi Industrial Estate, 700/147Moo1.
T.Ban khao A.Panthong Chonburi 20160 Thailand
事業内容：精密プラスチック金型及び成形品並びに関連部材の販売

2. 実習内容

2.1 実習スケジュール

- 1週目 工場見学、試作作業を一緒に行うことを通し、各部門に関する知識を深める。
- 2週目 テーマを決め、それについての実験を行い、データの整理を行った。
- 3週目 テーマについて整理し発表資料作成を行った。

2.2 テーマ

- ①射出成形において射出成形機の各パラメータを変化させたときの製品の重量や寸法の変化
- ②様々な材料の吸湿について

2.3 今回使用した材料

- (1) ポリカーボネート (PC)
- (2) ナイロン (PA)
- (3) ポリフェニレンサルファイド (PPS)
- (4) ポリアセタール (POM)
- (5) ポリプロピレン (PP)

2.4 テーマ①について

2.4.1 成形条件

射出成形の成形条件として、充填速度、保持圧力、冷却時間、金型温度、樹脂温度の5つある。そのなかで今回は保持圧力（以下保圧）を変えたときに製品の重量や寸法がどのように変化するのかを調査した。

2.4.2 使用したサンプル



図1 使用したサンプル（左上から PC,PA,PPS,POM,PP）

2.4.3 実験方法

(1) 以下のように保圧を設定して、各サンプルを採取する。

- | | |
|---|----------------|
| { | PC → 0 ~ 1200 |
| | PA → 0 ~ 1400 |
| | POM → 0 ~ 1300 |
| | PPS → 0 ~ 900 |
| | PP → 0 ~ 400 |

(2) 各保圧 2 個ずつサンプルを採取して、重量と寸法を測定する。

2.4.4 実験結果

表 1 ~ 表 5 に実験結果を示す。

表 1 実験結果 (PC)

保圧 (kgf/c)	0	100	200	300	400	500	600
重量 (g)	11.4875	11.996	11.991	12.0805	12.1405	12.179	12.224
寸法x (mm)	56.295	56.39	56.355	56.39	56.415	56.425	56.42
寸法y (mm)	56.29	56.38	56.36	56.395	56.42	56.425	56.42
保圧 (kgf/c)	700	800	900	1000	1100	1200	
重量 (g)	12.2595	12.303	12.338	12.377	12.416	12.451	
寸法x (mm)	56.43	56.44	56.455	56.465	56.475	56.48	
寸法y (mm)	56.41	56.45	56.46	56.45	56.47	56.475	

表 2 実験結果 (PA)

保圧 (kgf/c)	0	100	200	300	400	500	600	
重量 (g)	11.594	11.6685	11.6985	11.717	11.7365	11.7545	11.7645	
寸法a (mm)	5.3065	5.315	5.3135	5.302	5.31	5.3055	5.3125	
寸法b (mm)	2.929	2.922	2.9625	2.9335	2.9325	2.938	2.9395	
保圧 (kgf/c)	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400
重量 (g)	11.779	11.7895	11.808	11.83	11.844	11.8645	11.8835	11.9005
寸法a (mm)	5.311	5.3415	5.3285	5.325	5.3295	5.337	5.345	5.3415
寸法b (mm)	2.9415	2.94	2.9425	2.946	2.948	2.949	2.954	2.952

表 3 実験結果 (PPS)

保圧 (kgf/c)	0	100	200	300	400	500	600	700	800	900
重量 (g)	2.7515	2.751	2.7565	2.758	2.761	2.766	2.771	2.774	2.782	2.8125
寸法 (mm)	14.67	14.67	14.665	14.67	14.665	14.67	14.67	14.67	14.67	14.67

表 4 実験結果 (POM)

保圧 (kgf/c)	0	100	200	300	400	500	600
重量 (g)	2.5885	2.6995	2.7165	2.728	2.741	2.75	2.7625
外径	23.8005	23.894	23.92	23.9445	23.97	23.9805	23.9995
保圧 (kgf/c)	700	800	900	1000	1100	1200	1300
重量 (g)	2.772	2.7845	2.7945	2.8025	2.8105	2.8195	2.829
外径	24.02	24.04	24.0525	24.065	24.078	24.0915	24.1105

表 5 実験結果 (PP)

保圧 (kgf/c)	0	100	200	300	400
重量 (g)	18.5805	18.8395	19.5485	19.8775	19.9875
寸法 (mm)	24.155	24.175	24.19	24.29	24.32

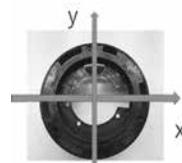


図 2 測定軸



図 3 寸法測定箇所

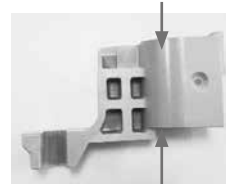


図 4 寸法測定箇所

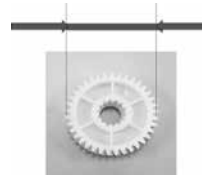


図 5 寸法測定箇所



図 6 寸法測定箇所

2.4.5 考察

重量に関しては、保持圧力が大きくなるほど重量は重くなり、また、寸法に関しては保持圧力が大きくなるほど寸法は大きくなるが PPS だけほぼ一定であった。

2.5 テーマ②について

製品を放置しておくと、経時で重量変化をする。これには吸湿という現象が関係している。この

吸湿によって本当に重量変化をしているか確かめるために、実験(1) で採取したサンプルを使用し
て調査した。

2.5.1 実験方法

実験(1)で採取した各材料のサンプルの重量と寸法を毎日測定した。

2.5.2 実験結果

表6～表16に実験結果を示す。

表6 実験結果 (PC 重量)

保圧(kgf/c)	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
0	11.4875	11.4895	11.4895	11.4895	11.489	11.489
100	11.996	11.9985	11.9975	11.9995	11.998	11.997
200	11.991	11.994	11.993	11.9955	11.994	11.9945
300	12.0805	12.083	12.0825	12.0835	12.0825	12.083
400	12.1405	12.1425	12.142	12.1435	12.1435	12.1435
500	12.179	12.1865	12.187	12.188	12.187	12.1875
600	12.224	12.2285	12.2295	12.2315	12.23	12.23
700	12.2595	12.269	12.269	12.2705	12.27	12.2695
800	12.303	12.3085	12.309	12.31	12.309	12.3095
900	12.338	12.3465	12.3465	12.3485	12.349	12.3475
1000	12.377	12.3845	12.384	12.385	12.385	12.384
1100	12.416	12.42	12.42	12.422	12.421	12.422
1200	12.451	12.4545	12.455	12.456	12.455	12.456

表7 実験結果 (PC 寸法 x)

保圧(kgf/c)	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
0	56.295	56.29	56.275	56.275	56.27	56.24
100	56.39	56.44	56.415	56.35	56.36	56.325
200	56.355	56.4	56.405	56.35	56.345	56.28
300	56.39	56.4	56.425	56.37	56.34	56.315
400	56.415	56.42	56.42	56.395	56.365	56.315
500	56.425	56.425	56.445	56.41	56.375	56.35
600	56.42	56.42	56.44	56.425	56.39	56.34
700	56.43	56.44	56.455	56.44	56.415	56.365
800	56.44	56.475	56.465	56.45	56.425	56.35
900	56.455	56.475	56.46	56.455	56.425	56.365
1000	56.465	56.5	56.47	56.46	56.44	56.38
1100	56.475	56.5	56.475	56.47	56.455	56.4
1200	56.48	56.5	56.495	56.48	56.46	56.43

表8 実験結果 (PC 寸法 y)

保圧(kgf/c)	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
0	56.29	56.29	56.31	56.295	56.285	56.25
100	56.38	56.41	56.435	56.34	56.35	56.32
200	56.36	56.38	56.41	56.38	56.35	56.295
300	56.395	56.39	56.435	56.38	56.34	56.305
400	56.42	56.44	56.435	56.39	56.37	56.325
500	56.425	56.425	56.43	56.38	56.395	56.335
600	56.42	56.44	56.455	56.41	56.395	56.34
700	56.41	56.435	56.45	56.44	56.405	56.345
800	56.45	56.47	56.465	56.445	56.435	56.36
900	56.46	56.48	56.475	56.435	56.445	56.36
1000	56.45	56.49	56.49	56.465	56.445	56.375
1100	56.47	56.5	56.485	56.48	56.46	56.38
1200	56.475	56.505	56.49	56.48	56.475	56.4

表9 実験結果 (PA 重量)

保圧(kgf/c)	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
0	11.594	11.603	11.608	11.6125	11.6185	11.6205	11.622
100	11.6685	11.677	11.6825	11.685	11.6915	11.6945	11.697
200	11.6985	11.7075	11.716	11.718	11.723	11.725	11.7265
300	11.717	11.7255	11.7325	11.734	11.74	11.7415	11.7435
400	11.7365	11.744	11.7515	11.7525	11.759	11.7615	11.763
500	11.7545	11.7625	11.7685	11.7725	11.778	11.7775	11.7795
600	11.7645	11.773	11.778	11.784	11.7905	11.7905	11.792
700	11.779	11.789	11.7925	11.799	11.805	11.8065	11.805
800	11.7895	11.799	11.8025	11.809	11.814	11.815	11.8155
900	11.808	11.8185	11.821	11.826	11.8315	11.834	11.8335
1000	11.83	11.8405	11.8425	11.85	11.8535	11.857	11.8565
1100	11.844	11.8525	11.8565	11.8625	11.8675	11.8685	11.8685
1200	11.8645	11.874	11.8775	11.8835	11.8885	11.8905	11.8915
1300	11.8835	11.893	11.8975	11.902	11.908	11.9105	11.912
1400	11.9005	11.9095	11.9145	11.9185	11.9245	11.927	11.921

表10 実験結果 (PA 寸法 a)

保圧(kgf/c)	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
0	5.3065	5.3125	5.3055	5.3015	5.306	5.3215	5.306
100	5.315	5.3085	5.3165	5.306	5.311	5.308	5.318
200	5.3135	5.3055	5.31	5.3065	5.316	5.3135	5.31
300	5.302	5.31	5.309	5.3365	5.3125	5.311	5.31
400	5.31	5.317	5.32	5.316	5.3165	5.3205	5.311
500	5.3055	5.3225	5.3205	5.319	5.321	5.329	5.3235
600	5.3125	5.3235	5.323	5.3245	5.3225	5.329	5.3255
700	5.311	5.333	5.324	5.327	5.326	5.331	5.3275
800	5.3415	5.3305	5.329	5.3305	5.329	5.3345	5.333
900	5.3285	5.334	5.3345	5.3385	5.3355	5.3355	5.336
1000	5.325	5.3375	5.334	5.338	5.3415	5.339	5.339
1100	5.3295	5.34	5.3425	5.34	5.333	5.341	5.343
1200	5.337	5.3525	5.3435	5.3475	5.347	5.3515	5.3455
1300	5.345	5.3595	5.3455	5.3535	5.347	5.3505	5.349
1400	5.3415	5.354	5.349	5.351	5.35	5.3545	5.352

表11 実験結果 (PA 寸法 b)

保圧(kgf/c)	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目
0	2.929	2.9305	2.9305	2.9635	2.9315	2.9315	2.93
100	2.922	2.9325	2.939	2.9355	2.935	2.936	2.933
200	2.9625	2.9405	2.9405	2.9395	2.9405	2.9365	2.9425
300	2.9335	2.941	2.942	2.935	2.9405	2.9445	2.9445
400	2.9325	2.9425	2.944	2.9435	2.9425	2.944	2.946
500	2.938	2.948	2.9455	2.9495	2.9485	2.947	2.949
600	2.9395	2.9465	2.95	2.951	2.95	2.9485	2.951
700	2.9415	2.9495	2.9495	2.9505	2.951	2.9515	2.9515
800	2.94	2.9575	2.9515	2.953	2.953	2.9535	2.9555
900	2.9425	2.9565	2.9535	2.9535	2.958	2.9565	2.956
1000	2.946	2.9585	2.9585	2.96	2.9565	2.962	2.9585
1100	2.948	2.959	2.9585	2.958	2.959	2.958	2.9605
1200	2.949	2.961	2.9625	2.963	2.961	2.96	2.9645
1300	2.954	2.962	2.9635	2.9645	2.9635	2.965	2.965
1400	2.952	2.964	2.9655	2.9665	2.9675	2.964	2.964

表 11 実験結果 (POM 重量)

保圧(kgf/c)	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
0	2.5885	2.59	2.5895	2.59	2.5895
100	2.6995	2.6995	2.6995	2.699	2.699
200	2.7165	2.7175	2.7175	2.717	2.71615
300	2.728	2.7295	2.7295	2.729	2.728
400	2.741	2.7435	2.744	2.743	2.7435
500	2.75	2.753	2.753	2.7515	2.752
600	2.7625	2.7655	2.7655	2.764	2.698
700	2.772	2.7755	2.775	2.774	2.7755
800	2.7845	2.785	2.785	2.785	2.785
900	2.7945	2.796	2.796	2.795	2.7955
1000	2.8025	2.805	2.805	2.8045	2.8045
1100	2.8105	2.813	2.8125	2.812	2.8125
1200	2.8195	2.8215	2.8205	2.8205	2.8215
1300	2.829	2.8305	2.8305	2.8305	2.8315

表 12 実験結果 (POM 外径)

保圧(kgf/c)	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
0	23.8005	23.798	23.8	23.796	23.7965
100	23.894	23.887	23.8905	23.889	23.8885
200	23.92	23.917	23.918	23.915	23.916
300	23.9445	23.941	23.9415	23.9375	23.939
400	23.97	23.967	23.968	23.9625	23.9635
500	23.9805	23.9775	23.9775	23.974	23.975
600	23.9995	23.9955	23.9965	23.9935	23.994
700	24.02	24.015	24.015	24.011	24.011
800	24.04	24.036	24.0335	24.0315	24.033
900	24.0525	24.048	24.046	24.0425	24.044
1000	24.065	24.061	24.059	24.056	24.056
1100	24.078	24.071	24.071	24.0665	24.0675
1200	24.0915	24.084	24.084	24.0805	24.0805
1300	24.1105	24.1035	24.1	24.098	24.0975

表 13 実験結果 (PPS 重量)

保圧(kgf/c)	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
0	2.7515	2.752	2.7525	2.754	2.753	2.75
100	2.751	2.7515	2.752	2.7525	2.7525	2.752
200	2.7565	2.756	2.756	2.7565	2.757	2.756
300	2.758	2.7585	2.759	2.76	2.76	2.75
400	2.761	2.7605	2.7605	2.762	2.764	2.76
500	2.766	2.7655	2.766	2.7675	2.768	2.766
600	2.771	2.773	2.7735	2.7735	2.7735	2.773
700	2.774	2.776	2.776	2.7775	2.777	2.77
800	2.782	2.7825	2.7835	2.7835	2.783	2.78
900	2.8125	2.8115	2.813	2.8145	2.814	2.814

表 14 実験結果 (PPS 寸法)

保圧(kgf/c)	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
0	14.67	14.67	14.67	14.67	14.67	14.67
100	14.67	14.665	14.67	14.67	14.67	14.67
200	14.665	14.67	14.67	14.67	14.67	14.67
300	14.67	14.67	14.67	14.67	14.67	14.67
400	14.665	14.67	14.67	14.67	14.67	14.67
500	14.67	14.66	14.67	14.67	14.67	14.67
600	14.67	14.665	14.67	14.67	14.67	14.67
700	14.67	14.67	14.67	14.67	14.67	14.67
800	14.67	14.67	14.67	14.67	14.67	14.67
900	14.67	14.67	14.67	14.67	14.67	14.67

表 15 実験結果 (PP 重量)

保圧(kgf/c)	1日目	2日目	3日目
0	18.5805	18.589	18.589
100	18.8395	18.847	18.8475
200	19.5485	19.5565	19.557
300	19.8775	19.8885	19.8875
400	19.9875	19.994	19.99

表 16 実験結果 (PP 寸法)

保圧(kgf/c)	1日目	2日目	3日目
0	24.155	24.225	24.17
100	24.175	24.215	24.21
200	24.19	24.21	24.2
300	24.29	24.295	24.315
400	24.32	24.34	24.31

2.5.3.1

次に本当に吸湿したのかを確認するために再度サンプルを乾燥させて、重量が軽くなるかどうかを検証した。乾燥は90℃で3時間行った。

2.5.3.2 実験結果

表 17 実験結果

材料	保圧(kgf/c)	乾燥前	乾燥後	差
PC	700	12.2695	12.251	-0.0185
PA	1400	11.927	11.907	-0.02
PPS	900	2.814	2.813	-0.001
POM	1300	2.8315	2.824	-0.0075
PP	400	19.994	19.96	-0.034

→重量が減少したため、吸水していたことが確認できた。

2.5.4 考察

- (1) 重量と保持圧力は比例する。また、寸法と保持圧力は比例するが PPS や POM などの例外がある。
- (2) 吸水率について

吸水率は以下の式で求められる。

$$\text{吸水率 (\%)} = \frac{(\text{最大重量} - \text{初日の重量})}{\text{初日の重量}} \times 100$$

上記の式を利用して、各材料の吸水率を計算したところ以下ようになった。

{	PC	0.0503%	→材料によって吸水率が異なることがわかる。
	PA	0.2282%	
	PPS	0.0794%	
	POM	0.0710%	
	PP	0.0439%	

- (3) 各材料は吸湿するが、ある一定の期間がたつと飽和し重量に変化が見られなくなる。
- (4) 各材料で、飽和するまでの期間に差が出る。

2.6 まとめ

- (1) 実験①と実験②より保持圧力が大きくなると重量は重くなるという関係はどの材料でも同じだが、寸法に関しては少し大きくなる材料とほぼ変化しない材料の2つある。
- (2) PPSは吸水しても寸法が変わらないため、湿気がかなり多い地域で使われる製品の部品の材料として大きく貢献するのではないかと考える。それに対して、ナイロンは一番吸湿しやすく、形が安定するまで時間を要するためそのような地域では不向きであると考えられる。

3. 実習の感想・学んだこと

工場見学や実際に作業を一緒に行うことを通して、プラスチック部品の大量生産がどのように行われているかを理解することができた。出来上がった部品を吸水させて部品の強度を上げるという工程があることは自分にとって興味深いことであった。1週間強かけて毎日全く同じ実験を行ったがそれでも結論付けることのできるデータ量は得ることができなかつたため、まだまだ実験は継続する必要がある。このように傾向が掴めるまで終わりが見えない実験をしている研究者の方の凄さを知ることができた。またデータ整理の際に数値の有効数字など細かいところまで確認する必要があることを知ることができた。

4. 全体のまとめ

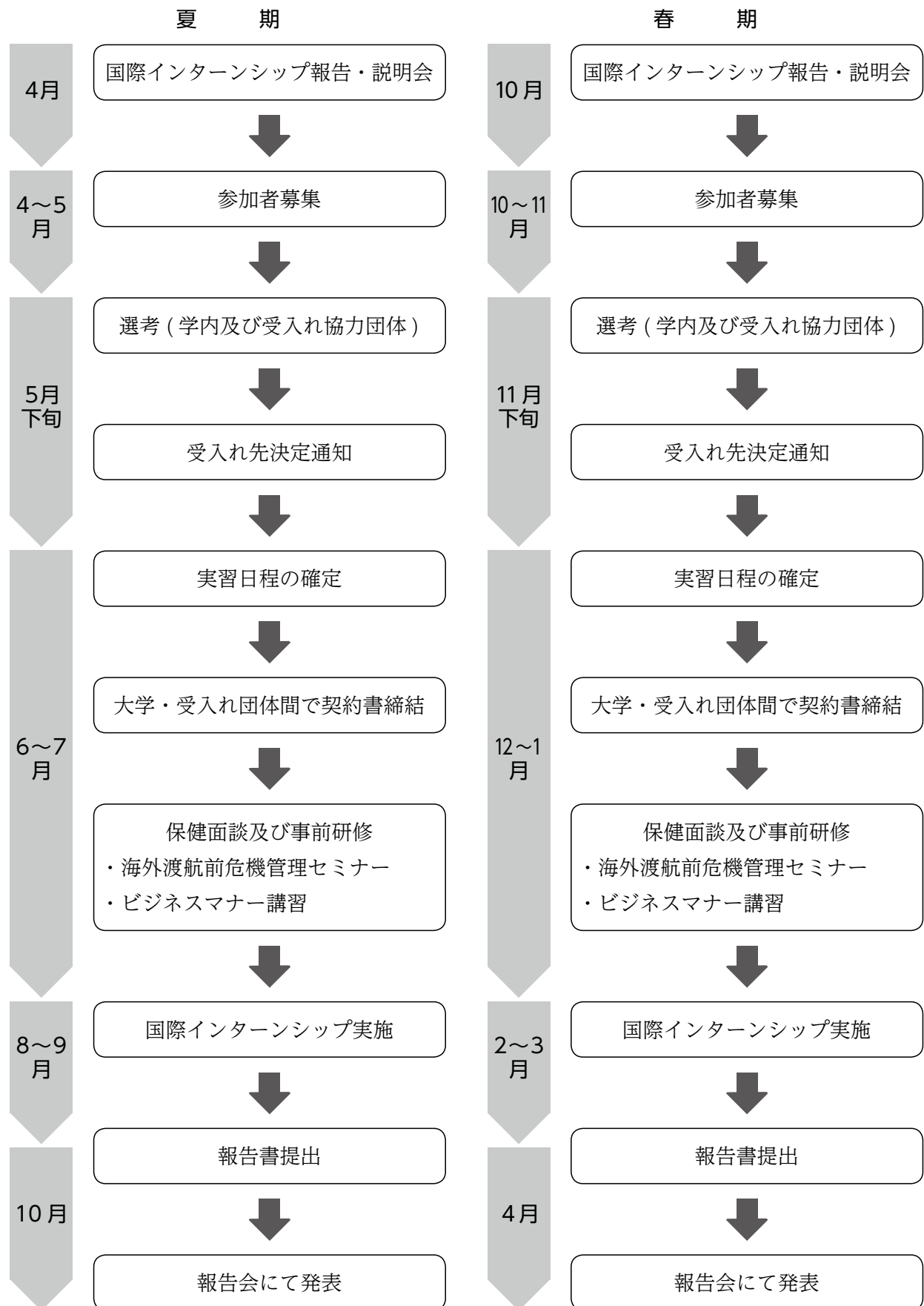
今回のインターンシップを通して、働くことの大変さ、研究者の大変さを学ぶことができた。英語や日本語が通じない相手に対しては言いたいことを簡単な言葉に変換したり示したりすることが大切だと痛感した。もし外国で働くことになったら今回の経験を生かせるようにしていきたい。

5. 謝辞

異国の地でインターンシップを行うことにはかなり不安はありましたが、周りの従業員の方々が話しかけてくださりとても安心して過ごすことができました。3週間という短い期間でしたが、優しく丁寧に指導していただきありがとうございました。

II . 參考資料

国際インターンシップの流れ



令和元年度春期国際インターンシップ募集要項

令和元年 11 月 8 日

令和元（2019）年度春期国際インターンシップの参加者を以下の通り募集します。

1. 実施時期・期間

時 期：令和 2 年 2 月中旬～ 3 月下旬
期 間：約 2 ～ 5 週間（実習先による）
実習時間：80 時間以上（実習先による）

2. 実習先

- ① 実習先詳細は、「令和元年度春期国際インターンシップ受入予定団体」参照のこと。
- ② 実習先に追加・変更が生じた場合は、掲示や留学生・国際交流センターの Web と Face book で通知します。
- ③ 受入れ団体側の都合又は実習先所在国の政治・治安情勢などにより、実習国の変更、または急遽実施を中止し、緊急帰国させることがあります。
- ④ 募集期間中に実施中止が決まった実習先があれば、留学生・国際交流センターの Web と Face book で通知します。
留学生・国際交流センター Website (<http://intl.utsunomiya-u.ac.jp/>)
Face book (<https://www.facebook.com/CIEUtsunomiya>)

3. 申請資格

次の全てを満たしていること。

- ① 本学の学部学生、院生（申請時及び実施期間に休学中の者は除く）
- ② 本年度の健康診断（胸部レントゲンを含む）を受け、心身共に健康であること
- ③ 実習先団体が求める条件（学力、専門性、語学力、追加予防接種など）を満たす者
- ④ 国際インターンシップ参加の志望動機及び実習目的が明確な者
- ⑤ 国際インターンシップの参加について、保護者の事前了解が確実に得られる者
- ⑥ 国際インターンシップ実施国への渡航が可能な者
- ⑦ “Learning+1” グローバル人材育成プログラムに履修登録している者（学部学生のみ）

以下に該当する者は、申請できません。

- ・申請時、既に就職先の内定を得ている
- ・既に本プログラムに参加したことがある（コンソーシアムの助成金利用の場合は可）
- ・社会人入試により入学した者あるいは社会人経験を 5 年以上有する

4. 参加費

原則自己負担（予防接種代、パスポート代、宿泊費、食費、交通費、土産代など）

5. 助成金（経費支援）

渡航費（往復航空運賃、空港税、空港施設使用料、旅客保安サービス料、燃油付加運賃及び発券手数料）とビザ取得料の一部について、宇都宮大学から支援されます。

（海外英語研修を含めて、同一年度内上限 10 万円とします）

注 1 助成対象は、日本国内の最寄りの国際空港から、実習先の最寄りの国際空港間の、最も経済的か常識的な経路による安価な航空券とします。

注 2 助成金は、実習終了後、全ての提出物及び課題を終えた場合に支給となります。

6. 単位認定

学部ごとに定められた単位があるので、各自確認すること（修学支援課、陽東分室）。

7. 参加学生の義務

- ① 必要書類等の期限内の提出（誓約書、実習日誌 & アンケート、レポート、発表資料等）
- ② 事前研修（1/15 実施の危機管理セミナー、2/10 実施のビジネスマナー研修）の参加
- ③ 法定予防接種等について、大学保健管理センターに相談し、可能な限り対応すること
- ④ 学研災付帯海外留学保険の加入
- ⑤ 受入団体に対するマナー（日々の挨拶、実習前後のメール）
- ⑥ 終了後の報告会（2020年4月中旬開催予定）における発表（プレゼンテーション）
- ⑦ インターンシップ事務室への緊密な連絡・報告（電話、メール）

8. 申請方法

申請書は、留学生・国際交流センターのホームページからダウンロードして記入・作成し、留学生・国際交流センター事務室（4号館B棟1階）に提出すると共に、電子媒体でも提出（データ持参やメール添付等でも可）してください。

個別成績表と語学能力証明書（TOEICスコア表など）の写しについても、スキャン等して、PDF、JPG等のファイルにより併せて提出してください。

申請書提出期限：2019年11月11日(月) 15:00 必着

9. 参加者の選考及び決定

応募書類、面接等による審査の上、参加者を決定します。

面接日及び結果発表

- ① 面接日は**11月19日から27日**の間いずれかを予定しています。
- ② 面接時間は個別に申請者に連絡します。
- ③ 面接時は私服で構いませんが、短パン、肌を露出した服、サンダルは不可とします。
- ④ 面接結果は、後日事務室から電話もしくはメールでお伝えします。

10. その他注意事項

- ・参加決定後の自己都合による実習先の変更や研修中止は、原則として認めません。
- ・海外渡航時の各種手続きには、パスポートの情報が必要になります。パスポートを持っていない人は、あらかじめ取得しておいてください。

既にパスポートを持っている人でも、渡航時に有効期限が1年を切るような場合は、更新手続きを行ってください。

照会・申請書類提出先

留学生・国際交流センターホームページ
<http://intl.utsunomiya-u.ac.jp/study/study07.php>
留学生・国際交流センター事務室（4号館B棟1階）
TEL：028 - 649 - 8179
E-mail：uiintern@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

国際インターンシップ費用内訳

単位：円／人

[2週間の場合の費用例]

	渡航費	宿泊費	食費	合計
マレーシア	86,000～95,000	20,000	2,000～5,000	126,000～135,000
スリランカ	90,000	17,000	8,000	124,000
ベトナム	60,000～124,000	22,500～40,000	4,000～20,000	103,500～164,000
タイ	63,000	25,000～27,000	4,000	106,000～114,000
シンガポール	65,000	44,000～45,000	30,000	182,000～186,000

[3週間の場合の費用例]

	渡航費	宿泊費	食費	合計
マレーシア	102,000～110,000	20,000～30,000	1,800～8,000	126,000～161,000
ミャンマー	69,000	70,000	2,000～3,000	150,000
ベトナム	34,000～83,000	25,000～32,000	5,000～19,000	99,000～137,000
タイ	58,000～89,000	49,000～78,000	10,000～30,000	165,000～198,000
アメリカ	202,000	N/A	N/A	620,000
カンボジア	56,000～89,000	24,000～28,000	8,000～9,000	114,000～156,000

[4週間の場合の費用例]

	渡航費	宿泊費	食費	合計
マレーシア	100,000～112,000	38,000～39,000	15,000	180,000～202,000
スリランカ	100,000～110,000	35,000～60,000	8,000～20,000	167,000～208,000
ベトナム	51,000～119,000	0～45,000	7,500～30,000	96,000～182,000
カンボジア	67,000～78,000	30,000～40,000	20,000	144,000～165,000

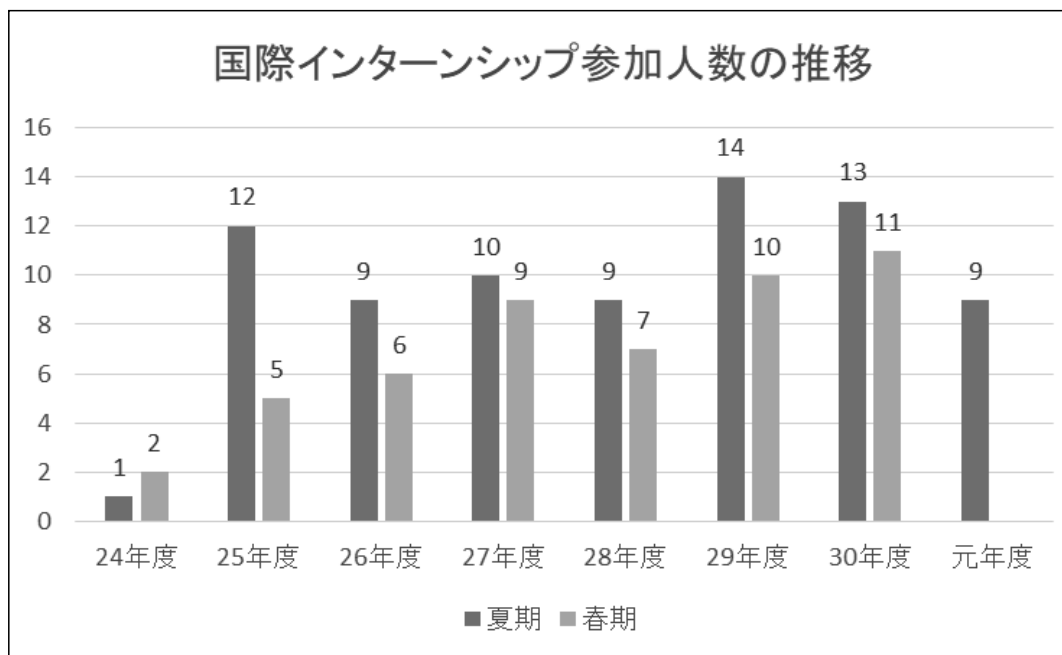
[5週間の場合の費用例]

	渡航費	宿泊費	食費	合計
タイ	90,000	35,000～73,000	25,000～26,000	181,000～212,000
スリランカ	190,000	60,000	N/A	268,000

- ※1 渡航費用には、往復航空賃、空港施設使用料、旅客保安サービス料、燃油付加運賃、発券手数料が含まれます。また、所定の条件を満たせば、渡航費用の一部が大学から支援されます。
- ※2 宿泊費は、ホテル・ホームステイ・寮等により、金額に差が生じます。
- ※3 上記の他に、査証取得費用、海外保険加入費、予防接種費用、現地交通費等必要に応じて発生する費用があります。
- ※4 平成28年度春期～令和元年度夏期国際インターンシップ参加学生からの報告に基づいて算出しています。

国際インターンシップ参加人数の推移

(平成24年度～令和元年度夏期)



宇都宮大学

令和元（2019）年度

春期「国際インターンシップ」の手引き

留学生・国際交流センター

国際インターンシップ事務室

※実習に関する手続きの詳細や注意事項など重要なことが書かれていますので、その都度読み返し、すべての手続きが完了するまで大切に保管してください。

I. 「参加決定」から「国際インターンシップ実施前」まで

1. 実施前の準備・手続き

(1) 実習期間や実習内容等の確認・決定

- ・参加決定後、自分が参加するインターンシップの実習期間や実習内容の概要を国際インターンシップ事務局（以下「事務局」）に確認する。
- ・特に、実習内容について要望がある場合には、事前に先方の担当者とよく相談しておくこと。ただし、受入団体側の都合や事情もよく理解し、その要望がかなわない場合でも、先方の提供する実習内容に自主的かつ積極的に取り組むこと。
- ・その他、現地空港での出迎え、現地での通信手段と宿泊施設、宿泊先から実習場所までの通勤手段、実習時の服装や持ち物の有無やその詳細を、各自で先方に必ず確認する。
- ・受入先からの宿泊施設（社員・学生寮や関係者宅でのホームステイなど）の提供が無い場合、各自でホテルやゲストハウスなどの予約を行う。予約状況は出発前にメールで再度確認をするか、ホテルバウチャーや予約確認書（email confirmation 等）を印刷して携帯する。なお、予約の際には、宿泊先周辺の治安状況を考慮するほか、いわゆる“安宿”は防犯上の不備や不安があることにも留意すること。

2. 提出書類及び提出後

添付の「提出物チェックシート」に従って期日までに必要書類を「事務局」に提出する。

3. 事前研修（※全てに参加して下さい）

(1) 『健康確認』

日時・場所：日程調整中の為、後日お知らせいたします。（保健管理センターを予定）

主な内容：母子手帳、定期健康診断の結果を元に健康状態、法定予防接種の確認

(2) 『海外渡航前危機管理オリエンテーション』

日時：1月15日(水) 17:50～19:00

場所：峰キャンパス 5B11 教室

主な内容：①海外で想定される危機・トラブルについて

②危機発生時の対応について

③海外渡航届の提出について

④留学・研修先到着後の宇都宮大学への連絡について

⑤在留届の提出について

⑥学研災、学研賠及び海外旅行傷害保険への加入について

⑦健康管理について

⑧その他

(3) 『ビジネスマナー講座』

※国内での就職活動を控えた学生を前提とした内容なので、海外では該当しない項目も一部含

まれますが、実習先の担当者・関係者と現地で接する際や、メールでやり取りする際に身に
着けておくべき最低限のマナーを習得していただきます。

開催日：2月10日(月) 10:00～12:00

場 所：峰キャンパス 5B11 教室

講 師：野崎千晶氏（予定）

内 容：①表情、身だしなみ、挨拶について

②言葉づかい、話し方・話しかけ方について

③電話対応マナー、メールのマナー

④訪問対応マナー（就業体験中の振る舞い）

講話と演習をとおして、インターンシップにも活かせる内容にしています。

4. 渡航準備

以下、渡航に当たっての大切な領事情報（Consular Information）などを記載しますが、最新
の情報を各自で必ず確認し、時間に余裕を持って必要な手続や準備に備えて下さい。

(1) 各国の領事情報（consular information）の確認

- ・入国時の旅券（パスポート）の残存有効期間や査証（ビザ）の要・不要は、国ごとに条件（滞
在目的、滞在日数、空路入国か陸路入国か、出国用予約済航空券の有無、現金所持額等）が異なる。
- ・現地の治安情報などを含め、最新の情報、特に、領事情報（consular information）を各大
使館や信頼のおける旅行代理店等で確認する。

【参 考】各国の駐日大使館、観光局、日本大使館・領事館

①ベトナム	・駐日ベトナム社会主義共和国大使館： http://www.vnembassy-jp.org/ja ・ベトナム観光総局： http://www.vietnamtourism.com/ ・在ベトナム日本国大使館： http://www.vn.emb-japan.go.jp/index_jp.html
②マレーシア	・マレーシア移民局： https://www.imi.gov.my/index.php/en/visa/apply-for-visa.html ・マレーシア政府観光局： http://www.tourismmalaysia.or.jp/kihon/kihon_c.htm ・在京マレーシア大使館： http://www.kln.gov.my/web/jpn_tokyo/home ・在マレーシア日本国大使館： https://www.my.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html
③台 湾	・台北駐日経済文化代表処： https://www.roc-taiwan.org/jp_ja/index.html ・台湾政府観光局： https://jp.taiwan.net.tw/ ・日本台湾交流協会： https://www.koryu.or.jp/

(2) パスポートの申請・更新等の手続き

a) 渡航時（出国～帰国）に有効なパスポートを持っていない場合

- ・各自、外務省や各自治体のパスポートセンターのホームページで必要書類（戸籍抄本また
は謄本、住民票の写し、写真等）を確認し、住民登録をしている自治体の旅券窓口で申請する。
※申請から発行まで約1週間要す。

※発行手数料 10年間…¥16,000、5年間…¥11,000

b) 既に有効なパスポートを持っている場合

- ・入国時に必要なパスポートの有効残存期間を確認する。もし、それに満たない場合は、直ちに
パスポートの更新手続きを行う。入国時の旅券残存有効期間は、国により異なる。参考の期間は

下に記すが、最新の情報は各国の大使館や信頼のおける旅行代理店等で各自必ず確認すること。

【参考1】各国入国時の有効残存期間（令和元年11月1日現在）

①ベトナム	滞在日数+6ヶ月以上
②マレーシア	入国日+6ヶ月以上
③台湾	予定滞在日数以上

【参考2】最寄りのパスポートセンター

宇都宮市パスポートセンター（二荒山神社東側のビルの5階）

所在地：宇都宮市馬場通り4丁目1番1号

うつのみや表参道スクエア5階 宇都宮市民プラザ内

取扱日時：土・日・祝日を含む毎日（年末年始を除く）

午前10時から午後7時

(3) 査証（ビザ、令和元年11月1日現在の情報）

①ベトナム	<ul style="list-style-type: none"> ベトナムでの滞在期間（入国日～出国日）が15日以内の場合は、査証免除措置により査証は必要ない。 16日以上滞在の場合には、ビザ取得を要する。 フエ大学は、Internship Visaを申請する。大学が送ってくれる許可番号を添えて大使館で申し込む。 観光ビザ（1ヶ月または3ヶ月） ベトナム外務省公式オンラインビザ申請ウェブサイト https://visa.mofa.gov.vn/_layouts/registration/ApplicationForm.aspx 申請書を郵送または直接大使館へ届ける必要があるため、早めに準備を始めること。
②マレーシア	<ul style="list-style-type: none"> INSART oursとLodge National Schoolは、事前のビザ取得は不要。 日本国籍で観光・商用目的で90日以内の滞在ならビザは不要。 *但しパスポートの残存期間が入国時に6ヶ月以上残っていることと、帰路への航空券を所持していることが条件
③台湾	<ul style="list-style-type: none"> 90日以内の短期滞在（観光、商用、親戚訪問等）であればビザは免除される。 旅券の残存期限は予定滞在日数以上必要、帰路の航空券も必要 ワーキング・ホリデー査証については以下を参照 https://www.roc-taiwan.org/jp_ja/cat/28.html

(4) 航空券の手配

・航空券は、日々価格が変動し、出発日が近くなるほど高額になる傾向があるため、参加決定後、速やかに受入先団体の担当者と日程調整を行い、ビザおよび航空券を手配する。但し、領収書を発行しない旅行代理店からは決して購入しないこと。

・支払いを済ませたら、領収書の原本を「国際インターンシップ事務室」に提出する。この提出ができない場合は、経済的支援を受けられない。領収書上、あるいはその添付書類上で下記の必要項目が確認できない場合も、経済的支援を受けられない場合があるので注意。

〈必要項目〉・搭乗者氏名

- ・出発日（日本および現地）と到着日（現地および日本）
- ・搭乗便名と予約クラス
- ・往復航空券料金
- ・航空保険料・燃油サーチャージ等

- ・ 出入国税
- ・ 空港施設使用料
- ・ 手配旅行に関わる取扱い手数料

5. 経済的支援：渡航費の一部に対する大学からの助成

※大学コンソーシアムとちぎからの助成金利用の場合は、別途確認のこと

- ・ 国際インターンシップ参加者に対し、日本国内の最寄りの国際空港と実習先の最寄りの国際空港間の往復航空券代と査証取得料の一部を大学が助成金として支援する。
- ・ 助成金の支払対象となる渡航費は、日本国内の最寄りの国際空港から、実習先の最寄りの国際空港間の最も経済的かつ常識的な航空経路によるエコノミー・クラスのディスカウント・チケットで、旅行期間（出国日～帰国日）は実習に加えて、荷物の整理や移動に必要な期間とする。
- ・ 提出された領収書及びその明細に基づき、助成金の支給手続きを行う。
- ・ 助成金は予め登録された参加者個人名義の銀行口座等に実習終了後に振り込まれる。
- ・ 次のいずれかに該当する場合、助成金の全額または一部の支払が取り消されるので、予め注意すること。
 - －大規模な自然災害や突発的な暴動・内乱等のやむを得ない場合を除き、個人的な事由でインターンシップを中断したとき
 - －本学から懲戒処分を受けたとき
 - －その他、本学が定めるインターンシップに関わる各種報告書や必要書類等を提出しないなど、受給者としての履行義務を欠くと判断したとき

6. 保険の加入（必須）

(1) 学生教育研究災害傷害保険（学研災）・学研災付帯賠償責任保険（学研賠）

- ・ 「学研災」（Aタイプに加入）とは？：

実習中およびその往復途中に生じた事故により身体に傷害を被った場合に対応。

- ・ 「学研賠」（Aコースに加入）とは？：

実習中およびその往復途中に他人に傷害を負わせたり、他人の財物を損壊したりした場合の「賠償責任」に対応。

- ・ これら保険に未加入の場合は至急加入すること：担当窓口：学生支援課（学務棟2階）

※本学で加入が義務づけられている学研災・学研賠は、インターンシップ実施に係る通勤や実習中が対象になる。

※実習日以外の休日や夜間の外出時の「事故や傷害」「疾病（病気）」「賠償責任」は対象外なので、以下の(2)「海外留学保険（付帯海学）」に必ず加入すること。

(2) 「海外留学保険」（学研災付帯「付帯海学」）

- ・ 「海外留学保険」とは、「学研災」に付帯する保険で、「学研災」では保障されない「疾病死亡」や「疾病治療」のほか、「救援者費用」や「賠償責任」を保障する。

- ・ 加入したら、その契約内容が判る「契約書」や「契約確認書」などのコピーを必ず「事務室」に提出する。

これらの保険に未加入の場合、国際インターンシップには参加できません。

Ⅱ. 「現地到着」から「インターンシップ実施」「帰国」まで

1. 「現地到着」時

- ・出迎えてくださった受け入れ団体の方に丁重にお礼を言うこと。

2. 「国際インターンシップ」実施期間中

- ・様式2-4「国際インターンシップ実習日誌」に毎日記入し、適宜受入団体の研修担当者の確認を受ける。
- ・体調不良の時は、受入団体の担当者に遠慮無く申し出て、必要に応じて医師の診察を受けること。
- ・現地での実習や生活に関して分からないことや困ったことがあれば、受入団体の担当者や「事務室」に遠慮無く相談すること。
- ・緊急事態（事件や事故、急病など）が発生した場合は、受入団体の担当者のほか、本冊子最終ページ記載の「宇都宮大学緊急連絡先」に連絡すること。

3. 「国際インターンシップ」終了後から「帰国」まで

- ・現地出発前に、インターンシップ終了から帰国までの予定（滞在先、帰国日等）を受入れ団体の担当者に伝える。
- ・日本に帰国（成田等に到着）したら、速やかに「留学生・国際交流センター事務室（国際インターンシップ事務室）」と受入れ団体担当者に電話またはメールで帰国を報告する。

Ⅲ. 「帰国後」 にすべきこと

1. 礼 状

- ・帰国後速やかにお世話になった実習先団体の関係者にお礼状を送付するか、または御礼のメールや電話をする。
 - ※速やかにお礼の気持ちを伝えるのが社会人としてのマナー。

2. 提出物

(1) 帰国後 1 週間以内（厳守）

- ・様式 2 - 4 「国際インターンシップ実施日誌」（原本）
- ・様式 3 - 2 「国際インターンシップ後アンケート」（原本又は電子ファイル）

(2) 帰国後 2 週間以内（厳守）

- ・様式 3 - 1 「国際インターンシップレポート」（原本と電子ファイル）
 - ※「レポート」は、必ず実習先団体の担当者に内容確認及び公表の了解を得てから提出する。
 - ※特に、企業団体秘密や顧客情報に関わることは「レポート」記載しないほか、特定の人物の氏名を記載したい場合は、本人の了解を必ず得ること。

(3) 提出先

- ・提出物は、いずれも「国際インターンシップ事務局」に直接持参すること。

3. 「国際インターンシップ報告会」における発表（必須）

- ・国際インターンシップ報告会（来年 4 月中旬予定）で、報告（プレゼンテーション 1 人 7 分程度）を行う。

IV. その他の渡航上の留意事項

- ・空港には、遅くとも飛行機の出発時刻の2時間前までに到着し、速やかに搭乗手続（チェックイン）を済ませる。
 - ※保安検査場から、搭乗口までの移動に時間を要する場合（空港内のバス移動等）があるので、早目に手続を済ませる。
 - ※搭乗手続は各空港・航空便の指定時間までに済ませないと搭乗できない場合がある。
- ・一定量（100mlまたは100g）以上の液体やゲル状のものなどは機内に持ち込めません。航空会社や空港によって異なる場合があるので、事前に航空会社や旅行会社のウェブサイトで最新の情報を確認すること。
 - ※機内に持ち込む際には、化粧品類やコンタクトの保存液などの液体は100ml以下の容器に入れ、ハンドクリームや歯磨き粉などはトラベル用のものを透明なビニール製の袋（ジップロックなどが便利）に入れる。
- ・常備薬（風邪薬、頭痛薬、胃腸薬等）は、日本で飲み慣れている薬を持参する。
 - ※現地の市販薬は、日本人の体質に合わないことがある。
- ・訪問国や地域の社会事情、文化事情などについて事前に調べて理解する。
 - ※関連図書や海外旅行ガイドブックの最新版等で最低限必要な現地語（あいさつなど）、現地の文化、風習、地理、治安、物価、交通手段、出入国カードの書き方等を事前に確認する。
 - ※現地の日常生活におけるタブー（特に、宗教的・政治的・軍事的な禁忌行為）には注意を払う。
- ・日本、栃木県や宇都宮大学について、現地で簡単な説明ができるよう準備する。
 - （例）日本や栃木県の人口や特産物、歴史、代表的な文化など、宇都宮大学の学生数、実習先国から来ている留学生数、大学の創立年や歴史、現学長名、学部・研究科等。
 - ※受入先団体スタッフの方々と交流する上で、名刺（写真付きがお勧め）を渡すと便利。
 - ※「折り紙」など交流のきっかけ作りに役立つものを持参するのも一案。
- ・日本と比べて、「治安が悪い」ことを常に意識し、「危機管理」に留意する。
 - （詳細は、「渡航前危機管理オリエンテーション」の資料を参照のこと）

V. 単位認定について

※参加者の所属学部により、単位認定される科目が異なるため、当該科目の単位認定条件（時間数、成績評価）を修学支援課や学務部陽東学務課の窓口で確認する。

Ⅵ. 参加決定後のスケジュール

時期	国際インターンシップに関する手続き等		単位認定
インターン シップ前 令和元年 11月下旬 ～ 令和2年 1月下旬	学生⇄団体	受入れ団体との連絡調整	◆学生の所属と単位認定科目 教育学部・農学部 →修学支援課で確認 地域デザイン科学部 →学務部陽東学務課で確認 国際学部 →国際キャリア実習 工学部 →インターンシップB
	提出物	・海外渡航届 ・誓約書（受入団体宛、大学宛）	
	各自手配等	・飛行機チケットの手配 （領収書及び明細の写しを提出） ・海外旅行傷害保険の加入 （保険証書の写しを提出）	
	参加義務	・健康確認 ・ビジネスマナー講習 ・渡航前危機管理オリエンテーション	
令和2年 2月中旬～ 3月下旬 (2～5週間)	インターン シップ実施	・現地着任報告（大学宛） ・実習日誌作成	
インターン シップ後	提出物	・帰国報告 （インターンシップ先、大学へ） ・レポート提出 ・報告会（4月中旬）	◆レポート、受入れ先の評定書等 及び各科目で必要とされる事項 に基づき該当科目の担当部署で 審査。

〈連絡先・問合せ先〉

〒321-8505 宇都宮市峰町350 宇都宮大学

◆国際インターンシップ事務室

（峰4号館B棟1階「留学生・国際交流センター事務室内」）

電話：+81-(0)28-649-8179

メール：uintern@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

宇都宮大学緊急連絡先

電話：+81-28-649-5100

（留学生・国際交流センター事務室）

メール：ryuugak1@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

日本時間の土・日・祝日または夜間

電話：+81-28-649-5044

（正門案内所・24時間対応）

国際インターンシップ実施に関する覚書

〇〇株式会社（以下「甲」という。）と国立大学法人宇都宮大学（以下「乙」という。）は、国際インターンシップの取扱いについて、次のとおり覚書を締結する。

1. 国際インターンシップ（就業体験）実習の概要

国際インターンシップの条件を右記のとおり定める。

2. 事故災害時の対応

乙は実習を行う学生を学生教育研究災害傷害保険（以下「学研災」という。）に加入させ、実習中及びその往復途中に生じた事故により身体に傷害を被った場合に対応する。また、学研災付帯賠償責任保険（インターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険）に加入させて、実習中及びその往復途中に他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したりすることにより甲が被る法律上の損害を補償する。

3. 誓約書の提出

国際インターンシップに参加する学生は、実習に先立ち甲に対し「誓約書」を提出する。

4. 学生の個人情報取扱い

甲は、乙又は学生から提出された学生の個人情報について、その取扱いに十分留意するとともに、乙及び学生の同意なく実習に関わらない目的での使用や第三者への提供を行ってはならない。

5. 実習の打ち切り

誓約書に違反する行為が生じた場合、甲は乙と協議の上実習を打ち切ることができる。

6. その他の対応

この覚書に定めのない事項については、甲乙協議の上決定する。

7. 覚書の効力

この覚書の有効期限は、下記の署名日から実習終了日までとする。

本覚書の締結を証するため本書2通を作成し、甲乙記名押印の上、それぞれ1通を保有するものとする。

令和1年 月 日

甲 〇〇県・・・

〇〇株式会社

代表取締役社長 〇〇 〇〇 印

乙 栃木県宇都宮市峰町350

国立大学法人 宇都宮大学

宇都宮大学長 石 田 靖 印

国際インターンシップの条件

(ア) 参加学生

〇〇学部 〇〇学科 〇年 氏名

(イ) 大学担当者

国際インターンシップ事務局

TEL:028-649-8179

(ウ) 受入期間

令和※年※月※日 ※曜日 ~ 令和※年※月※日 ※曜日

(エ) 主な実習地

現地住所

(オ) 実習担当者

〇〇課 役職名 氏名 TEL:※※

(カ) 実習手当等

実習手当 支給しない

交通費 支給しない

食費 支給しない

誓 約 書

〇〇株式会社
代表取締役社長 〇〇 〇〇 様
令和 年 月 日
宇都宮大学 学部 学科 年 印
氏名

このたび、私が貴団体において国際インターンシップ（就業体験実習）をするにあたっては、下記事項を遵守することを誓います。

記

1. 実習期間中は、貴団体の就業規則およびこれに基づく諸規則の定めに従います。
2. 貴団体の諸規則、規範を守り、実習期間中は管理・監督者の指示に従います。
3. 実習に際しては、次の事項を厳守します。
 - (1) 貴団体の名誉を毀損するような行動は行いません。
 - (2) 貴団体の営む事業を妨害するような行動は行いません。
 - (3) 実習中知り得た機密事項は一切外部に漏洩しません。
4. 故意または過失により貴団体に損害を与えたときは、直ちに弁償します。
5. 実習中に自己の不注意により万一災害を受けた場合は、貴団体に迷惑をかけることなく自己の責任において処理します。

以上誓約いたします。

海外実習に関する誓約書

年 月 日から 年 月 日に実施される国際インターンシップに関して、参加者は、参加者の自己責任において行われる実習であることを了承します。よって、これらの活動および海外旅行に際して発生した万一の事態（不測の事故、疾病、傷害、盗難、その他）については、渡航前に海外旅行傷害保険に加入する等の措置により、一切、本人または保護者の責任において処理することを同意いたします。
つきましては、参加者の所属大学並びに「国際インターンシッププログラム」関係者の責任を追究するとはいたしません。

平成 年 月 日

参加者氏名 _____ (印)
宇都宮大学 学部 学科 年
学籍番号 _____
住所 _____
保護者氏名 _____ (印)
住所 _____



2-1A (令和1年度 春期)
指導責任者→宇都宮大学

国際インターシッップ評定書

団体名	
部署・役職名	Ⓜ
お名前	

実習生	所属	氏名
実習期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	
実習時間	出席 日 : 遅刻 日 欠席 日 : 早退 日	総実習時間 時間

ご担当者様のご感想、学生に対するアドバイス (例えばこの学生の専門知識が分かったか、貴団体から見たこの学生の強み・弱みは何か等々) を自由に書きください。また、おしいところを要約ですが、[2-1B]の評価シートへの記入もお願いします。

2 - 2 (令和1年度 春期)

指導責任者→(学生)→宇都宮大学

[指導責任者の方へ]

本紙に御記入いただき、封印のうえ、インターシッップ終了日に学生へお渡しいただくか、国際インターシッップ事務局宛にメールの添付ファイルでお送り願います。メール添付の場合には印鑑は不要です。

国際インターシッッププログラム要望書

令和 年 月 日

機関名	
指導責任者	部署名 氏名 学号 学科・専攻 年 印
受入学生氏名等	学籍番号 氏名

(大学への要望事項等がございましたら、下欄に御記入願います。)

社会人基礎力評価シート(受入れ担当者用)

氏名:

評価項目	能力要素(定義)	具体例	評価					この実習者は 5. 具体例によくあてはまる 4. あてはまる 3. ある程度あてはまる 2. あまりあてはまらない 1. 全くあてはまらない N/A: その能力を発揮する機会が 無かった。 空欄はご自由にお使いください。
			5	4	3	2	1	
アクション	主体性 (物事に進んで取り組む力)	必要な事は、自主的に始め、きちんと完了させる 様々な可能性を事前に考えて、準備をする 緊急時などに、焦らず迷わず必要な行動がとれる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	働きかけ力 (他人に働きかけ巻き込む力)	やるべき仕事(やりたい仕事でなくとも)に最後まで熱心に取り組む 難しい課題には、オープンな態度で、建設的に、プロフェッショナルに取り組む	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	実行力 (目標を設定し、確実に行動する力)	周囲に働きかけ、「この人と一緒に目標に向かおう」という気持ちにさせる事ができる 依頼者の要求(質、量、期日)をきちんと把握してから業務を開始する 目標を定め、最適な手順や方法を考える	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	分析力 (現状を分析し、問題や課題を明らかにする力)	困難に直面しても、目標を見失わない 大きな仕事や複雑な業務は、小さな単位に分解して取りかかる 状況から結果を予測している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
考え抜く力	計画力 (問題の解決に向けたプロセスをあらかじめに準備する力)	様々な情報の中から、問題解決につながる有益な情報を見分けることができる 組織としてのゴールを明確に理解した上で、自身の業務計画を立てる 起こりうるトラブルを想定し、効果的な予防策、対策を考える	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	創造力 (新しい価値を生み出す力)	時間管理怠りなく、段取り良く仕事を 斬新、且つ実用的なアイデアを生み出すことができる。 複数のアイデアを統合したり、既存の方法を応用するなどして、新しいもの(又は方法)を考えられる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	発信力 (自分の意見をわかりやすく伝える力)	自分の意見を、適切な形で述べることができる 分かりやすく、論理的に説明できる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	傾聴力 (相手の意見を丁寧に聞く力)	相手の話しの腰を折らずに、意見を最後まで聴くことができる 相手の話しを正確に理解するため、質問や確認をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
チームワーク	柔軟性 (意見の違いや立場の違いを理解する力)	様々な状況下で、あるいは苦手な相手やグループと働く時でも、効果的に働くことができる 新しい考え方、やり方を抵抗なく受け入れる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	規律性 (社会のルールや人との約束を守る力)	効果を高めるための、変更や調整を厭わない 法令や職場のルールを守り、指示に従っている 正直かつ率直だ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		自分の間違いを認め、他人のせいしない 人種、性別、障がい、職業や信条などに対する偏見が無い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		ストレス状況下でも冷静でいられる 自分なりのストレス解消法を持っている 高い回復力をみせる	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

国際インターンシップ実習日誌

提出日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

実習先 _____

学 科 _____ 学 年 _____ 年

学 専 攻 _____

学籍番号 _____

氏 名 _____

注) 日誌の用紙が不足する場合にはコピーして使用して下さい。

実 習 日 誌

月 日 ()

担当者確認

宇都宮大学 氏名 _____

本日の実習内容

反省点

次回の目標

その他(気づいた点・感想)

実習担当者からのコメント・アドバイスを

※必須ではございませんので、何か気づいたことがございましたらご記載ください。

レポートの書式

3-1 (令和元年度 夏期)

上マージン 25mm

学部/学科: _____ 氏名: _____

学年: _____

実習先: _____

実習期間: 令和 年 月 日 ~ 月 日

1. 実習先の概要
実習先の所在地、事業内容等を記載。

2. 実習内容

2.1 実習スケジュール

2.2 実習内容詳細

(1) _____

(2) _____

(3) _____

3. 実習の感想・学んだこと

4. まとめ
実習についてのまとめ(自分の将来にどんな風に役立つかなどを記載して下さい。)

5. 謝辞
受け入れ先の企業の方々にあなたの気持ちを伝えてください。

参考文献

1) 必要に応じて、「氏名: 文献名、発行学会名、出版社、pp. 最初のページ-最後のページ、発行年」を記載。文中には「リ」と文献番号を参照して下さい。

2) 例えば下野新聞(令和1年9月10日 朝刊 3面)。

3cm × 4cm 写真

左マージン 23mm

右マージン 20mm

下マージン 25mm

～レポート書式詳細～

- 用紙について
 - ・MS-Wordで報告書原稿を作成。
 - ・A4縦用紙、2～4ページにまとめる
 - ・マージンは、上下：25mm、左：23mm、右：20mm とする。
- 文字について
 - ・文字の大きさは、10.5pt
 - ・文字フォントは「MS明朝」、英数字は「Times New Roman」
 - ・文章中の句読点は、「、」「。」とする。
- 写真について

写真は実習先に許可をとった上で撮影し、報告書に掲載することを説明すること。できるだけ詳細に明るさ、コントラストの調整をお願いします。
- 見出しについて
 - ・見出しは、2.を章として、2.1、2.2・・・と続け、その下は、(1)、(2)・・・とする。章番号と節番号、あるいは文章との間は、1行開ける。この他見出しに応じて、①、②、③・・・や「・」などを適宜使用すること。細かい見出しは、報告者に任せる。
 - ・図の見出しは、図の下側、表の見出しは、表の上側に表示し、「表-1 表の見出し」や「図-1 図・写真の見出し」、「図 or 写真 or 表-通し番号」とする。

表-1.1 表の見出し

図-1 図・写真の見出し

国際インターンシップ後アンケート

3 - 2 (令和元年度夏期)

このアンケートの集計結果は学内外に報告されます。

学科/専攻 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____
 国名 _____ 実習団体名 _____

【Q1】あなたが国際インターンシップに参加しようと思った理由は何ですか？

- 次の選択肢の中から上位3つを選んでその番号を記入してください。
1. 海外で生活をしたかった
 2. 海外で仕事をしたかった
 3. 大学で得られない知識・技能（語学を除く）を得たかった
 4. 語学力を強化したかった
 5. 大学の勉強と実社会との関連性を見つけたかった
 6. 卒論・修論に役立てたかった
 7. 自分に合う仕事を見つけたかった
 8. 就活に役立てたかった
 9. 単位取得のため
 10. その他 [_____]

第1位	第2位	第3位	
-----	-----	-----	--

【Q2】あなたが国際インターンシップ参加の意思を伝えたとき、保護者の方の受け止め方は？

- 次の選択肢の中から、最も近いと思われるものを1つだけ選んでその番号に○をつけてください。
1. 積極的に賛成してくれた
 3. 反対だった
 4. 無関心だった

理由 _____

【Q3】今回、事前の準備と現地で支払った費用（現地交通費、食費、宿泊費など）はどれくらいでしたか？

日本円換算でお答えください。

往復航空券 _____ 円	宿泊費 _____ 円
予防接種 _____ 円	現地交通費 _____ 円
ビザ代 _____ 円	観光費 _____ 円
食費 _____ 円	お土産代 _____ 円

その他 [_____] 合計 _____ 円

【Q4】国際インターンシップの費用は、主にどのようにして用意しましたか。

1. 働いて貯めた
2. 親からもらった
3. 親から借りた
4. その他 [_____]

【Q5】今回の実働時間は合計何時間ですか？

また、あなたが最も適切だと思う実働時間（または日数）は？
 最も適切だと思う実働時間 _____ 時間
 最も適切だと思う実働日数（ _____ 日）

【Q6】今回の実働時間全体における、各職務の割合を記入してください

見学 _____ %	事務作業 _____ %
現場作業 _____ %	実験・計算 _____ %
会議・報告会 _____ %	その他(_____) _____ %

【Q7】今回の実習に役立つと思われる知識（言語を含む）や経験、技能は何ですか？

【Q8】今回の実習体験の中で、特に印象的だった事をあげてください（1～3つ）。

【Q9】今回のインターンシップ全体の満足度について、最も近いものに○をつけてください。

1. 大いに満足
2. 満足
3. どちらともいえない
4. 不満

理由 _____

【Q10】今後等かのインターンシップを体験するとしたら、どのようなインターンシップを希望しますか？

業種： _____ 職種： _____

国または地域名： _____ 時期： _____

その他希望する内容、条件を自由にお書きください

質問は以上です。他に何かご意見がありましたら下の欄や裏面に自由にお書きください。
 アンケートへのご協力ありがとうございました。

令和 年 月 日

学部長・研究科長 殿

海外渡航届

次のとおり海外渡航をしますので届出します。

____ 学部・研究科 _____ 学科・専攻 ____ 年
 _____ 課程

指導 教員	印
----------	---

学籍番号 _____ 氏名 _____

1. 渡航の詳細

渡航目的 (該当の□にチェック)	I 大学を通しての教育・研究活動等による渡航 【 担当教員名または部局名： _____ 】 <input checked="" type="checkbox"/> 大学主催プログラム (プログラム名：国際インターンシップ) <input type="checkbox"/> 交換留学 (協定大学) <input type="checkbox"/> インターンシップ ※内容がわかる資料を添付してください <input type="checkbox"/> 実習・調査 ※内容がわかる資料を添付してください <input type="checkbox"/> その他 (_____) ※内容がわかる資料を添付してください II 上記 I 以外による渡航 (休学 <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無) <input type="checkbox"/> 私費語学研修 <input type="checkbox"/> 私費留学 <input type="checkbox"/> 旅行 <input type="checkbox"/> サークル活動 <input type="checkbox"/> その他 (_____)
渡航先・連絡先	国 名： 機関名： 住 所： 電話番号 (携帯電話)：
渡航期間 出発日・帰国日	_____ 年 月 日 ~ _____ 年 月 日 (出発日： _____ 年 月 日) (帰国日： _____ 年 月 日)
渡航便	(航空会社： _____) (便名： _____)
帰国便	(航空会社： _____) (便名： _____)

2. 緊急連絡先 …留学中変更があった場合は宇都宮大学まで報告してください

滞在時の本人の連絡先 (部屋番号まで記入のこと)	住 所： 電話番号 (携帯電話)： メールアドレス：
日本国内の緊急連絡先	氏 名： _____ (続柄： _____) 住 所： 電話番号 (携帯電話)： メールアドレス：
受入担当者等の連絡先	氏 名： 電話番号 (携帯電話)： メールアドレス：

3. パスポート等

パスポート No. :	有効期間： _____ 年 月 日
ビザの種類：	

4. 保険等

学生教育研究災害傷害保険「学研災」	渡航目的が大学を通しての教育・研究活動等	加入・未加入
学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険「学研賠」	による渡航、私費語学研修、私費留学の場合	加入・未加入
学研災付帯 海外留学保険「付帯海学」	は加入が必須です	加入・未加入
海外旅行者傷害保険等 (「付帯海学」対象外の方には、加入を強く推奨します)	加入 ・ 未加入	保険会社名： 電話番号： _____ 保険証番号：

※この届は、渡航する1週間前までに、次の窓口に提出してください。
 (1-Iの場合) → 留学生・国際交流課 / (1-IIの場合) → 修学支援課 【国際・教育・農学部及び研究科】
 学務部陽東分室【工・地域デザイン学部及び研究科】